

千葉県八千代市  
市内遺跡発掘調査報告書

池の台遺跡 g 地点  
妙見前遺跡 d 地点  
麦丸宮前上遺跡 b 地点  
島田遺跡 b 地点  
麦丸宮前上遺跡 c 地点  
平沢遺跡 b 地点  
新東原遺跡 j 地点  
井戸向遺跡 b 地点  
青柳台遺跡 b 地点  
上谷津台遺跡 a 地点

平成 22 年度  
八千代市教育委員会



# 凡 例

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成21年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 本書に収録した遺跡は以下のとおりである。

No.	遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	調査面積/調査対象面積	調査原因	調査担当者
1	池の台遺跡g地点	萱田字池ノ台 2238番2ほか	平成21年5月20日～ 平成21年6月1日	248㎡/ 4,137.89㎡	宅地造成	宮澤久史
2	妙見前遺跡c地点	吉橋字妙見前1462	平成21年5月20日～ 平成21年5月27日	36㎡/ 549.26㎡	個人住宅	森 竜哉
3	麦丸宮前上遺跡b地点	麦丸字宮前上1396番地2 ほか	平成21年6月18日～ 平成21年6月25日	163㎡/ 1,496.26㎡	宅地造成	宮澤久史
4	島田遺跡b地点	島田台字島田道858番1 の一部	平成21年8月19日～ 平成21年8月26日	42㎡/ 499.82㎡	店舗建設	森 竜哉
5	麦丸宮前上遺跡c地点	大和田新田字米本道南 635番7の一部	平成21年9月8日～ 平成21年9月10日	50㎡/ 942.68㎡	駐車場	森 竜哉
6	平沢遺跡b地点	上高野字平沢158-1ほか	平成21年9月24日～ 平成21年11月5日	562㎡/ 6,000㎡	社会福祉施設建設	森 竜哉
7	新東原遺跡j地点	勝田字新東原1272-1ほか	平成21年9月16日～ 平成21年11月16日	1,065㎡/ 9,472㎡	宅地造成	森 竜哉
8	井戸向遺跡b地点	萱田字木戸浦1161番地1 の一部	平成21年11月4日～ 平成21年11月16日	164㎡/ 1,553㎡	集合住宅	宮澤久史
9	青柳台遺跡b地点	米本字青柳台1466番1ほ か	平成21年11月17日～ 平成21年11月27日	208㎡/ 2,299.27㎡	墓園建設	森 竜哉
10	上谷津台遺跡a地点	上高野字上谷津台1046番 1の一部	平成22年3月4日～ 平成22年3月26日	840㎡/ 8,200㎡	宅地造成	常松成人

3. 報告書作成は平成22年度事業として平成22年4月3日～平成23年2月26日にかけて行った。
4. 本書の執筆・編集は、Ⅰ、Ⅱ-10を常松成人が、その他を宮澤久史が行った。遺物の写真撮影は宮澤、図版作成の補助は小弓場直子が行った。
5. 出土遺物及び実測図等の資料は八千代市教育委員会で保管している。
6. 本書で使用した地形図は、八千代市発行の10,000分の1都市計画図及び2,500分の1八千代市都市計画基本図を使用した。
7. 各実測図の縮尺については、原則として下記のとおりである。  
土師器・・・1/4      その他、拓影図・断面図・・・1/2
8. 本書で使用した「台」・「谷」・「支台」・「支谷」は、『殿内遺跡b地点』で命名されている名称に従っている。
9. 発掘調査及び整理ならびに報告書作成に際しては、関係各機関及び内外の多くの方々にご指導、ご御協力を頂きました。記して深く謝意を表します。(順不同、敬称略)

千葉県教育委員会 八千代市立郷土博物館 玉井庸弘 内田武志 道上 文

# 目 次

凡 例  
目 次  
挿図目次  
図版目次

I 調査に至る経緯	1
II 各調査の概要	4
1 池の台遺跡 g 地点	4
2 妙見前遺跡 d 地点	6
3 麦丸宮前上 b 遺跡	8
4 島田遺跡 b 地点	10
5 麦丸宮前上 c 遺跡	12
6 平沢遺跡 b 地点	14
7 新東原遺跡 j 地点	16
8 井戸向遺跡 b 地点	19
9 青柳台遺跡 b 地点	22
10 上谷津台遺跡	24
参考文献	28

写真図版

報告書抄録

第15図 新東原遺跡j地点トレンチ配置図等	17
第16図 井戸向遺跡位置図	19
第17図 井戸向遺跡 b 地点トレンチ配置図等	20
第18図 青柳台遺跡位置図	22
第19図 青柳台遺跡 b 地点トレンチ配置図等	23
第20図 上谷津台遺跡位置図	24
第21図 上谷津台遺跡 a 地点トレンチ配置図等	25
第22図 上谷津台遺跡 a 地点出土遺物	26

## 図版目次

図版 1	池の台遺跡 g 地点・麦丸宮前上遺跡 b 地点
図版 2	麦丸宮前上遺跡 b 地点・平沢遺跡 b 地点
図版 3	平沢遺跡 b 地点・新東原遺跡 j 地点
図版 4	井戸向遺跡 b 地点
図版 5	上谷津台遺跡
図版 6	上谷津台遺跡

## 挿図目次

第1図 平成21年度市内遺跡位置図	2
第2図 池の台遺跡位置図	4
第3図 池の台遺跡 g 地点トレンチ配置図等	5
第4図 妙見前遺跡位置図	6
第5図 妙見前遺跡 d 地点トレンチ配置図等	7
第6図 麦丸宮前上遺跡位置図	8
第7図 麦丸宮前上遺跡 b 地点トレンチ配置図等	9
第8図 島田遺跡位置図	10
第9図 島田遺跡 b 地点トレンチ配置図等	11
第10図 麦丸宮前上遺跡位置図 (2)	12
第11図 麦丸宮前上遺跡c地点トレンチ配置図等	13
第12図 平沢遺跡位置図	14
第13図 平沢遺跡 b 地点トレンチ配置図等	15
第14図 新東原遺跡位置図	16

# I 調査に至る経緯

八千代市は、首都圏のベッドタウンとして開発が進み、平成8年4月の東葉高速鉄道の開業以来、さらにその傾向を強め、沿線を中心とした新しいまちづくりが進んでいる。こうした状況の中、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）では、千葉県教育委員会の指導のもと、開発事業者から事前手続きとして提出される「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」（以下「確認依頼」という。）に対処し、埋蔵文化財の保護に努めている。確認調査が必要と判断される事業については、国庫及び県費の補助を受け、「市内遺跡発掘調査事業」として調査を実施している。

以下は、平成21年度に実施した「市内遺跡発掘調査事業」の各調査に至る経緯である。

## 池の台遺跡 g 地点

平成20年6月、株式会社国際総合設計代表取締役柳田正人氏（以下「事業者」という。）から萱田字池ノ台の宅地造成事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、現況畑地・駐車場等で、一部周知の遺跡範囲内であり、隣接地において遺構・遺物が検出されている。市教委は、「確認地は周知の埋蔵文化財包蔵地であるから、文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であることと、「その取扱いについて協議したい」旨（以下「遺跡が所在する旨」という。）を同年7月に回答した。その結果、事業者は、環境整備を行ったうえで開発事業を進めたいとのことであったため、それを待つこととし、平成21年4月、事業者から法第93条第1項の規定による土木工事のための発掘届（以下「法第93条の届出」という。）が提出され、5月20日に調査を開始した。

## 妙見前遺跡 d 地点

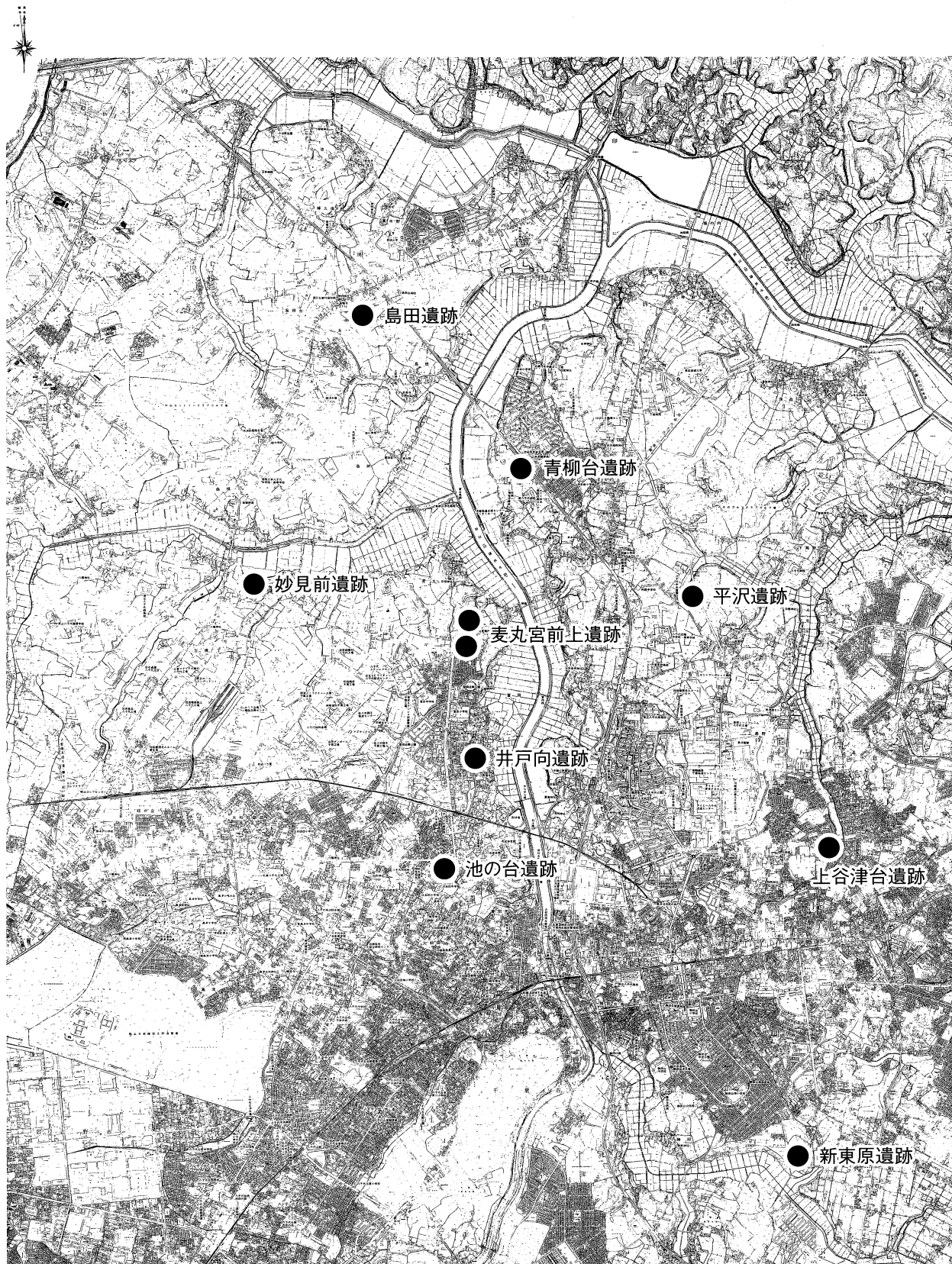
平成20年11月、山崎松三氏（以下「事業者」という。）から、吉橋字妙見前の個人住宅建設事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、現況宅地で、周知の遺跡範囲内であり、近隣で遺構・遺物が検出されており、当該地にも遺構が分布する可能性が高いと判断された。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。隣地との境界確定などの終了後、21年5月、事業者から法第93条の届出が提出され、5月20日に調査を開始した。

## 麦丸宮前上遺跡 b 地点

平成21年5月、日新ホーム株式会社代表取締役岡田定一氏（以下「事業者」という。）から麦丸字宮前上の宅地造成事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、周知の遺跡範囲内であり、隣接地で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同月、事業者から法第93条の届出が提出され、6月18日に調査を開始した。

## 島田遺跡 b 地点

平成21年6月、株式会社ファーコス代表取締役社長島田光明氏（以下「事業者」という。）から島田台字島田道の店舗建設事業に伴い、確認依頼が市教委に提出された。照会地は、周知の遺跡範囲内であり、現況畑地の地表面及び隣接地に遺物の散布が認められた。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同月、事業者から法第93条の届出が提出され、8月19日に調査を開始した。



第1図 平成21年度調査 市内遺跡位置図  
 (八千代都市計画基本図に加筆)

#### 麦丸宮前上遺跡 c 地点

平成21年7月、日新ホーム株式会社代表取締役岡田定一氏から大和田新田字米本道南の宅地造成事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、現況駐車場で地表面観察は不可能であったが、周知の遺跡範囲内であり、隣接地の畑地に遺物の散布が認められた。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同月、土地所有者の飯田健次郎氏から法第93条の届出が提出され、9月8日に調査を開始した。

#### 平沢遺跡 b 地点

平成21年7月、土地所有者の蛭間秀夫氏・蛭間辰夫氏・山崎重信氏から上高野字平沢の福祉施設建設事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は、現況山林で地表面観察は不可能であったが、一部周知の遺跡範囲内であり、隣接地において遺構・遺物が検出されている。市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業主体者である社会福祉法人鳳雄会理事長黒田明美氏から、同年8月、法第93条の届出が提出され、9月24日に調査を開始した。

#### 新東原遺跡 j 地点

平成21年8月、原田キヨ子氏・原田茂氏（以下「事業者」という。）から宅地造成事業に係る確認依頼が市教委に提出された。確認地は現況畑地で遺物の散布は認められないが、周知の遺跡範囲内であり、隣接地で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、同年9月法第93条の届出が提出され、9月16日に調査を開始した。

#### 井戸向遺跡 b 地点

平成21年9月、加藤泰助氏（以下「事業者」という。）から萱田字木戸浦の集合住宅建設事業に係る確認依頼が提出された。確認地は、周知の遺跡範囲内であり、現況畑地で遺物の散布が認められ、近隣で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。同年10月、事業者から法第93条の届出が提出され、11月4日に調査を開始した。

#### 青柳台遺跡 b 地点

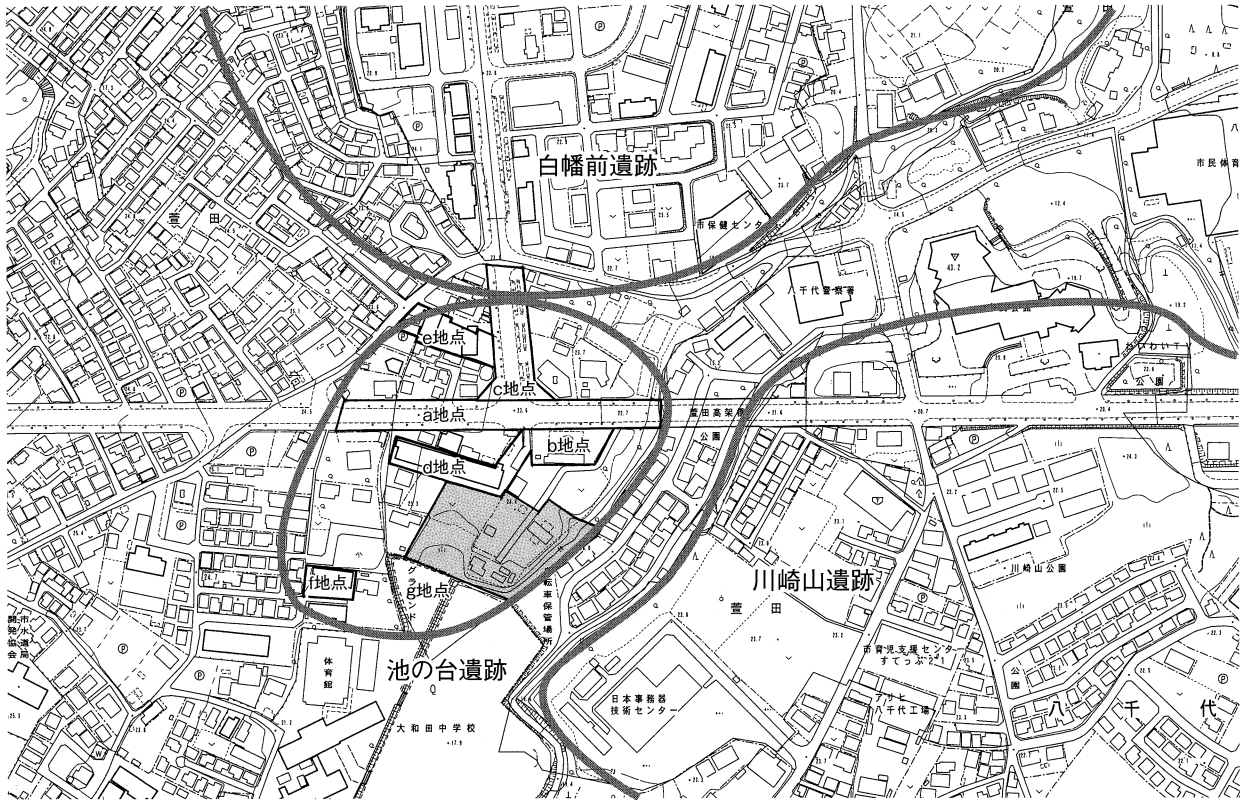
平成21年10月、宗教法人扶桑山感應寺代表役員渡邊一雅氏（以下「事業者」という。）から米本字青柳台の墓地造成事業に係る確認依頼が提出された。確認地は、現況山林で地表面観察は不可能であったが、一部周知の遺跡範囲内であり、近隣で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。下草刈りを事業者が実施し、同年11月、事業者から法第93条の届出が提出され、11月17日に調査を開始した。

#### 上谷津台遺跡 a 地点

平成21年12月、石井勇吉氏・石井タマエ氏・石井千代松氏（以下「事業者」という。）から上高野字上谷津台の宅地造成事業に係る確認依頼が提出された。確認地は、現況山林で地表面観察は不可能であったが、一部周知の遺跡範囲内であり、隣接地で遺構・遺物が検出されている。このため、市教委は、遺跡が所在する旨を同月に回答し、取扱いに係る協議を行った。その結果、事業者は開発事業を進めたいとのことであり、発掘調査を行うこととなった。調査に先立ち伐採を事業者が実施し、平成22年3月、事業者から法第93条の届出が提出され、3月4日に調査を開始した。

## Ⅱ 各調査の概要

### 1 池の台遺跡 g 地点



第2図 池の台遺跡位置図（1：5,000）

#### 遺跡の立地と概要

池の台遺跡は、市域の中央からやや南に寄った萱田町に所在し、新川の村上橋付近から南西に入り込む池の谷津を南に望む台地上に立地する。標高は約23mで、南面する谷津との高低差は約7mである。

本遺跡は、広義の意味では萱田遺跡群に含まれ、遺跡の北方に白幡前遺跡、さらには井戸向遺跡、北海道遺跡等が展開し旧石器時代から中近世に至る遺構・遺物が検出されている。また、池の谷津を隔てた南方には弥生時代～古墳時代を中心とした川崎山遺跡、上ノ山遺跡等が展開する。

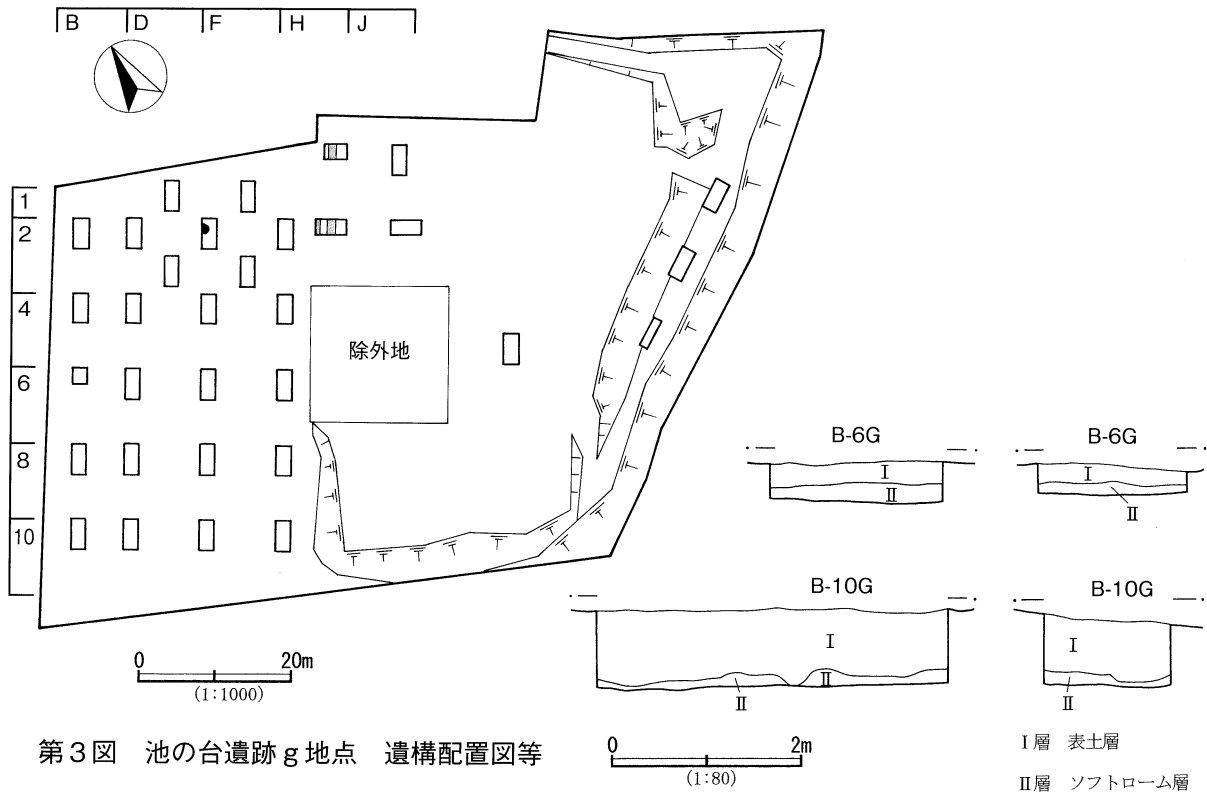
調査区は、台地上先端部から平坦面にかけてである。これまでに6地点（a～f）で調査が行われ、縄文時代の陥穴、平安時代の竪穴住居跡等が中心に検出されている。今回の調査地点は、d地点の南側隣接地に位置しg地点となる。

#### 調査の方法と経過

現況は、畑と荒蕪地であった。荒蕪地の下草を刈りつつ並行してトレンチを設定することとした。調査区の形状に合わせて、5mのグリッドを組み、グリッドに沿った状態で2m×4mのトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年5月20日～6月1日で、5月20日に機材搬入、現況写真撮影、下草刈りなどの調査準備作業及びグリッド杭打ちを行う。21日、グリッド杭打ち及びトレンチ設定を行う。25日から人力による表土掘削を行いながら遺物包含層の有無の確認を行う。27日から重機による表土除去及び遺構検出作業を行う。平行して写真撮影、土層断面図作成等の記録作業も適宜行う。28日、遺構検出作業を終了し、6月1日、機材撤収、埋め戻し等を含め調査を終了した。





調査風景



調査風景

### 調査の概要

調査区の基本土層は、I層、表土、II層、ソフトローム層で遺構確認はII層上面で行った。また、調査区東側は、調査開始時には既に地形の改変（切土・盛土）を大幅に受けていたようで、2m近く掘削するも地山を検出するには至らなかった。

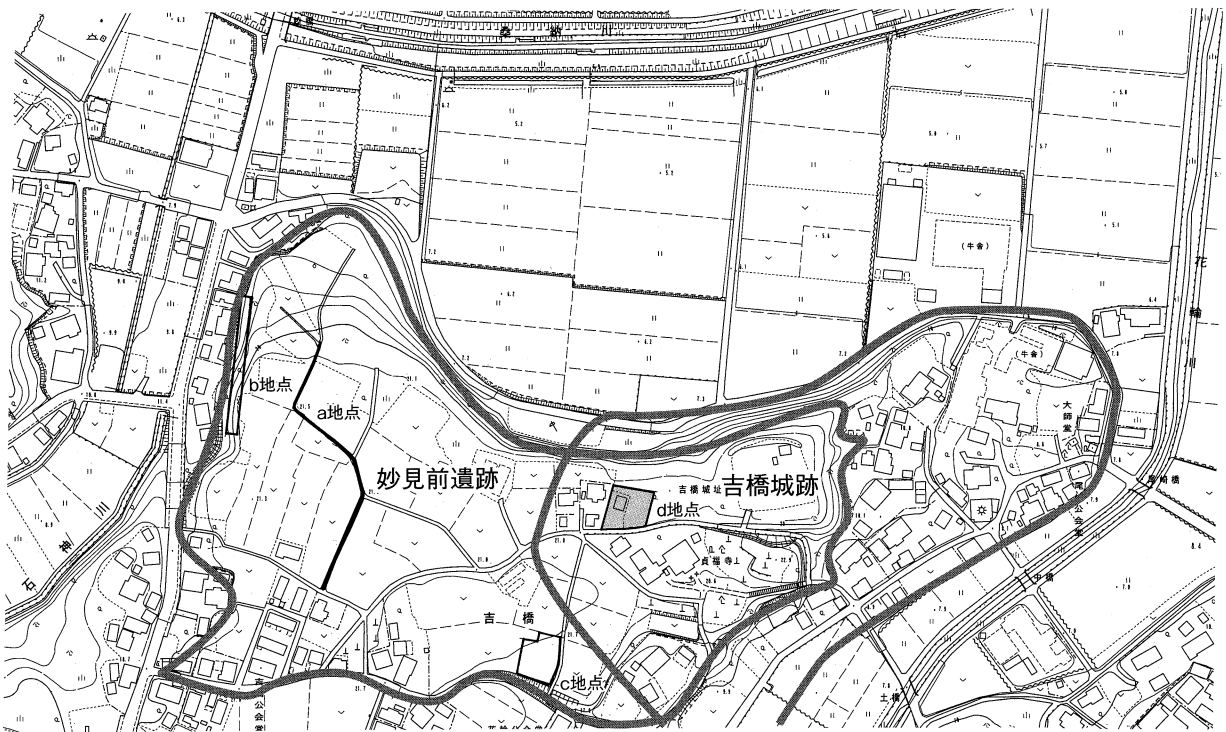
遺構は、縄文時代の陥穴1基と時期不明の溝2条が検出されたのみだった。

遺物の包含層も検出されず、奈良・平安時代の土師器小片が少量出土したのみであった。

### 調査のまとめ

今回の調査では、縄文時代の陥穴が1基検出されたのみであった。池の台遺跡では、これまでの調査でも縄文時代の陥穴と奈良・平安時代の竪穴住居跡が散在的に検出される傾向があり、そうした意味合いからも今回の調査結果は、これまでの調査所見を追認したことになるであろう。

## 2 妙見前遺跡 d 地点



第4図 妙見前遺跡位置図 (1 : 5,000)

### 遺跡の立地と概要

妙見前遺跡は、市域西部吉橋地区に所在し、桑納川を北に臨む台地上に立地する。東側を花輪谷津（花輪川）、西側を石神谷津（石神川）が入り込む。標高は20~21mで、水田面との高低差は約14mである。

本遺跡の東側に遺跡範囲が重なりあって吉橋城跡、南側に隣接して渋内遺跡等が展開する。

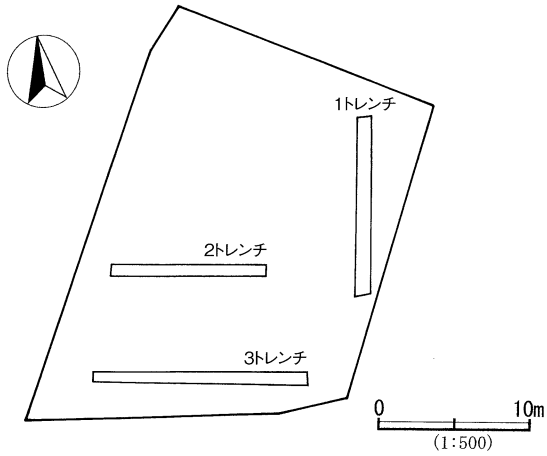
本遺跡は、これまで3地点（a～c）で調査が行われている。a地点は、本遺跡内中央のやや西側に位置し、平成10年に八千代市教委が農道舗装に先行して確認調査を実施した。中世堀跡1条、溝6条、地形整形遺構11カ所、ピット3基を検出した。遺物は、縄文土器、磨石片・石皿片、弥生時代後期～古墳時代前期の土器片、中世常滑焼の鉢・甕・大甕片が出土した。b地点は、遺跡内北西側の台地縁辺部に位置し、平成17年・18年に八千代市遺跡調査会が急傾斜地対策工事に先行して確認調査及び本調査を実施した。確認調査では、土塁2カ所、土手1カ所、溝2条、土坑3基、地形整形遺構2カ所を検出した。時期は、ほぼ中世と想定される。本調査では、中世土塁1カ所、堀跡1条、地下式土坑1基、火葬墓1基を調査した。遺物は、縄文土器、中世常滑焼甕片、青磁碗片、石臼片、渡来銭2点が出土した。c地点は、遺跡範囲内の南側中央に位置し、平成17年に八千代市教委が確認調査及び本調査を実施している。中世と想定される溝・土坑群を検出し調査した。遺物は、縄文土器、奈良・平安時代土器器小片、常滑焼甕胴部片等が出土した。

今回の調査区は、遺跡北東部、吉橋城跡 a 地点の西方約100mの地点で、桑納川を北に望む台地の縁辺部に位置し d 地点となる。

### 調査の方法と経過

現況は、宅地で、調査区の形状や調査区内の状況に応じて任意のトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年5月20日～5月27日で、5月20日に機材搬入、現況写真撮影及びトレンチ設定を行う。21日、重機による表土除去を行う。22日、遺構検出作業を行う。25日から写真撮影、土層断面図作成等の記録作業を行う。26日、記録作業と機材撤収を終了し、27日、埋め戻し等を含め調査を終了した。



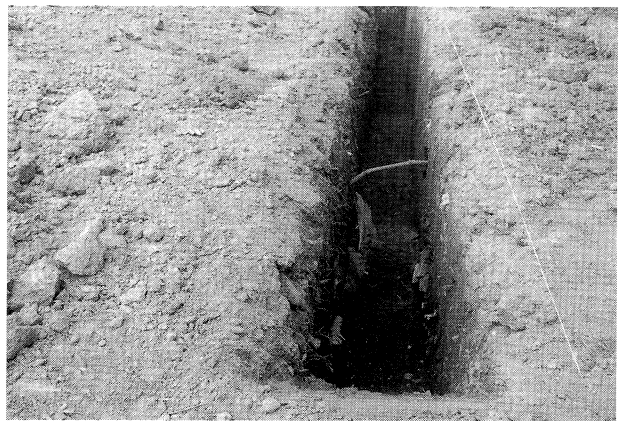
第5図 妙見前遺跡d地点・トレンチ配置図



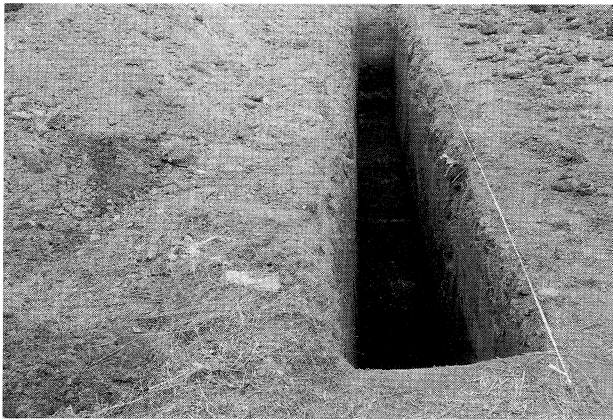
調査前現況



調査風景



1 トレンチ完掘状況



2 トレンチ完掘状況



3 トレンチ完掘状況

第5図 妙見前遺跡d地点トレンチ配置図等

#### 調査の概要

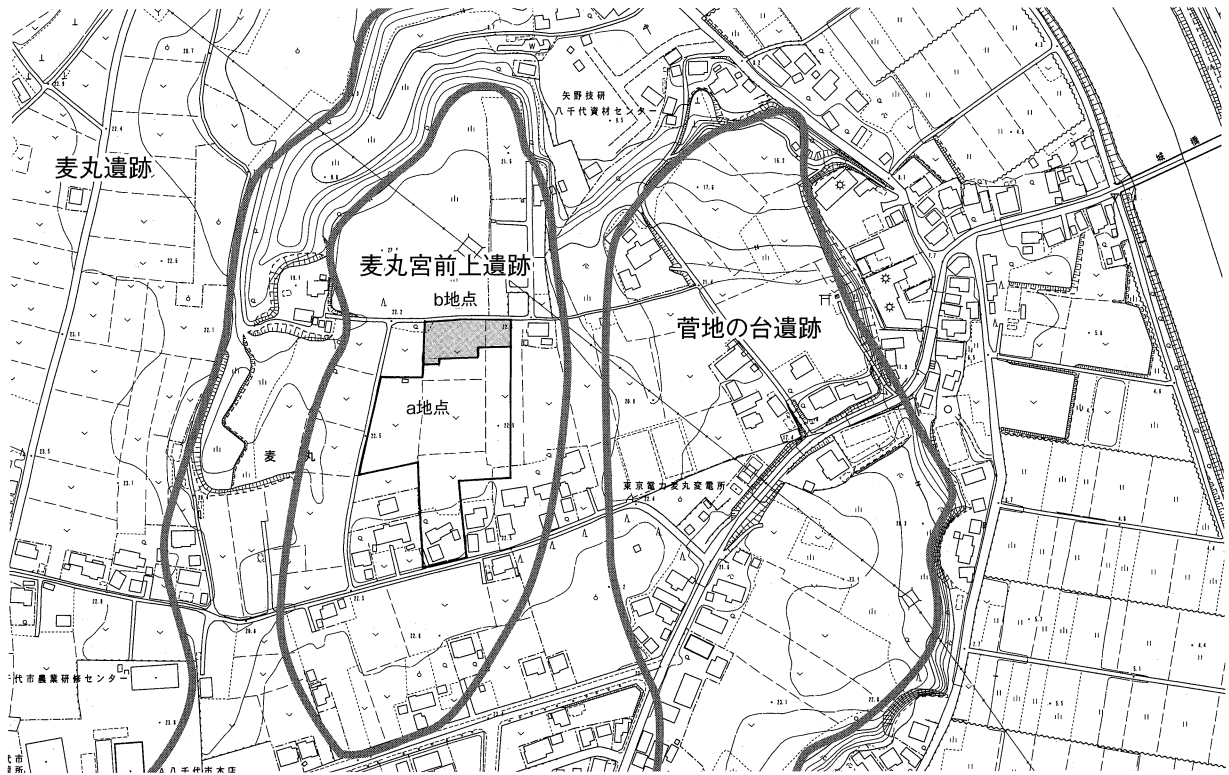
調査区の基本土層は、I層、表土（耕作土）、II層、ハードロームで遺構確認はII層上面で行った。

遺構・遺物は、検出されなかった。

#### 調査のまとめ

今回の調査では、遺構・遺物は、検出されなかったが、耕作土の下がハードロームであったことは注目される。本調査区が吉橋城跡の範囲内でもあること、周辺の調査で中世の遺構・遺物が検出されていること等から、城の普請などの中世の大規模な台地整形等が行われた可能性が考えられる。

### 3 麦丸宮前上遺跡 b 地点



第6図 麦丸宮前上遺跡位置図

#### 遺跡の立地と概要

麦丸宮前上遺跡は、市域中央の麦丸地区に所在する。市域中央を流れる新川西岸の台地で、かつ、新川と桑納川が合流する地点に位置する。新川・桑納川から発達した小支谷（栄重谷津）に囲まれた舌状台地先端部～平坦部に展開する。標高は22m～23mで、低地との高低差は約17mである。

周辺の遺跡としては、本遺跡西方に縄文時代を中心とする麦丸遺跡が、東方には縄文時代～奈良・平安時代に至る複合遺跡の菅地の台遺跡が所在する。また、南方には、縄文時代～奈良・平安時代に至る複合遺跡である権現後遺跡・ヲサル山遺跡をはじめとする萱田遺跡群が展開する。

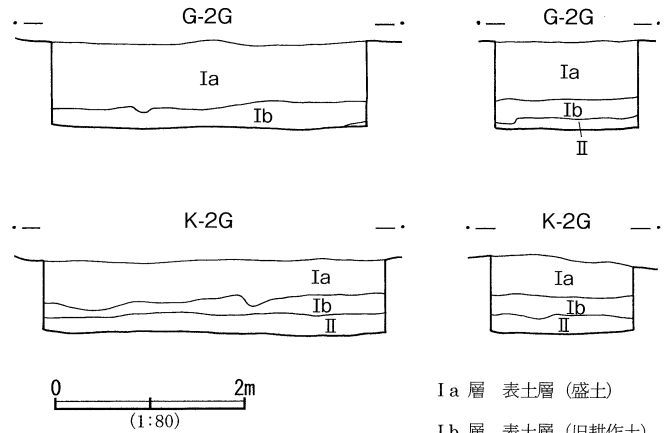
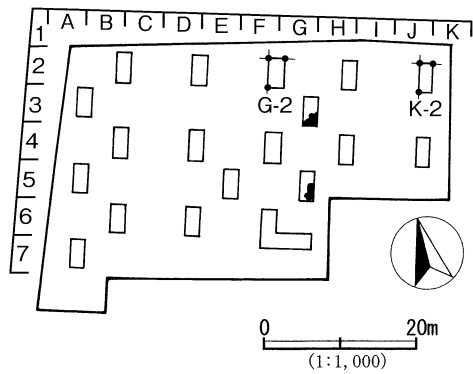
過去の調査例としては、平成20年度に遺跡のほぼ中央部に当たる台地平坦面において確認調査及び本調査を行った（a地点）。遺構は、古墳時代後期～奈良時代の竪穴住居跡4軒を検出し調査した。遺物は、同時代の土師器・須恵器が出土した。

今回の調査区も、遺跡のほぼ中央部に当たる台地平坦面に位置する。a地点の北側隣接地にあたり、b地点となる。

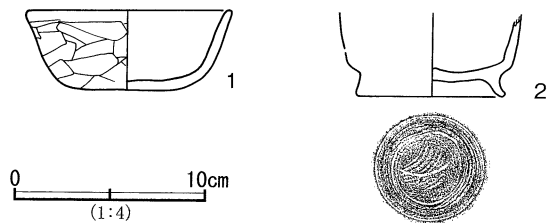
#### 調査の方法と経過

現況は、元畑地に盛土を行った荒蕪地であった。調査区の形状に合わせて5mグリッドを組み、グリッドに沿った状態で2m×4mのトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

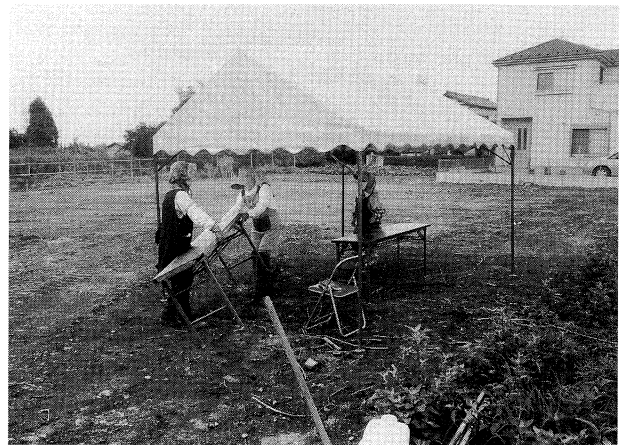
調査期間は、平成21年6月18日～6月25日で、6月18日、機材搬入、調査区閉鎖等の環境整備及び現況写真撮影、遺物の表面採集、グリッド杭打ち及びトレンチ設定を行う。同日、人力による表土掘削を行いながら遺物包含層の有無の確認を開始する。19日、包含層調査が終了し、重機による表土除去及び遺構検出作業を行う。22日から写真撮影、土層断面図作成等の記録作業を行う。25日、埋め戻し作業及び機材撤収作業を行い、調査を終了した。



I a 層 表土層 (盛土)  
 I b 層 表土層 (旧耕作土)  
 II 層 ソフトローム漸移層



第7図 麦丸宮前上遺跡 b 地点遺構配置図等



調査風景

### 調査の概要

調査区の基本土層は、I層、表土、II層、ソフトローム漸移層、III層、ソフトローム層で、遺構確認はIII層上面で行った。

遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡2軒が検出された。

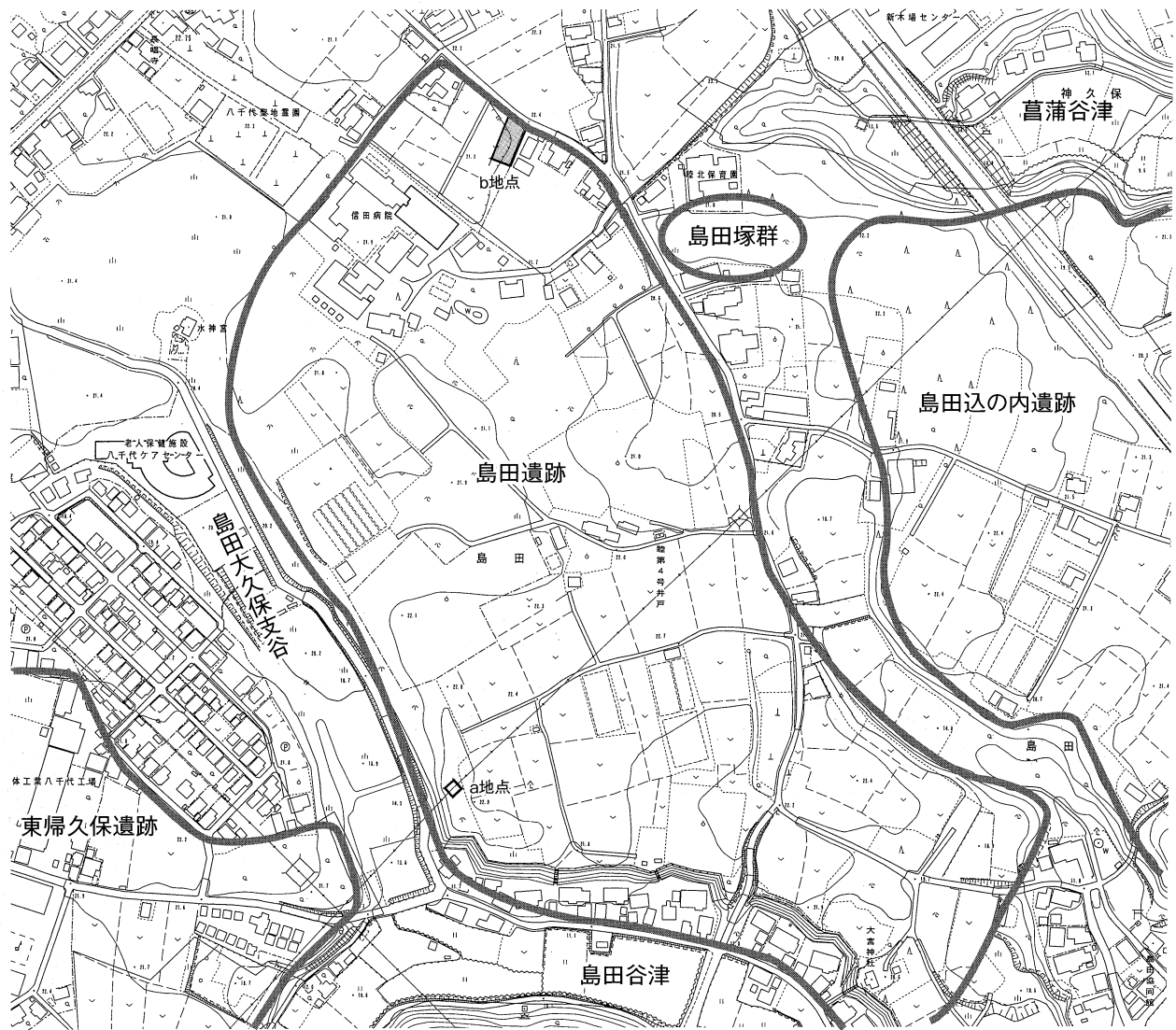
遺物の包含層は検出されず、奈良・平安時代の土師器小片が少量出土したのみであった。

図示した遺物は、検出した竪穴住居跡の覆土からの出土である。1・2ともに奈良・平安時代の土師器で、1は、坏形土器で完形品である。体部から底部にかけてヘラ削り調整を施す。底部はやや丸みを持つ。色調は、外面が橙褐色で内面が暗褐色である。胎土に石英・長石を微量含む。内面に薄く炭化物が付着している。2は、ロクロ成型の高台付の坏で略完形品である。体部はナデ調整で、底部は回転糸切りの後、周縁ナデ調整を行い、最後に高台部を貼り付けている。色調は暗褐色である。胎土に石英・長石・赤色スコリア、各微量を含む。

### 調査のまとめ

今回の調査 (b 地点) では、奈良・平安時代の竪穴住居跡を2軒検出したわけであるが、今回の b 地点が a 地点の北側隣接地であること、検出された竪穴住居跡が概ね同時代であることから、a・b 両地点の竪穴住居群を同一の集落として捉えることが必要であると思われる。また、集落の展開としては b 地点の更に北側が台地先端となっている地形的特色から、集落は b 地点の北側に大きく展開している可能性がある。類例の蓄積をまって検討したい。

## 4 島田遺跡 b 地点



第8図 島田遺跡位置図 (1 : 5,000)

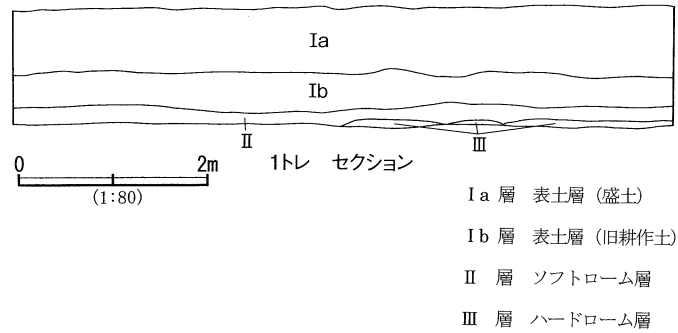
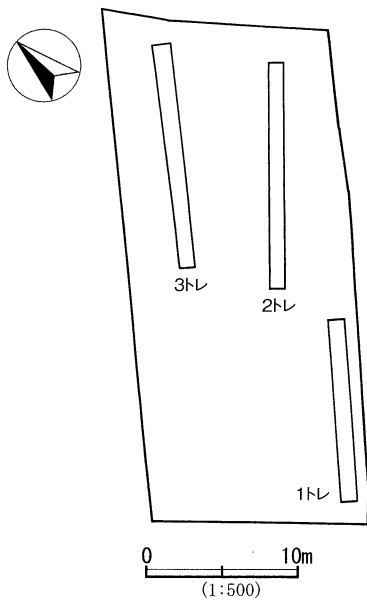
### 遺跡の立地と概要

島田遺跡は、市域北部島田台地区に所在する。菖蒲谷津と島田谷津に取り囲まれた島田支台の基部から坪作支谷、島田大久保小支谷に囲まれた戸崎小支台にかけて展開する。標高は約22mの台地で低地との高低差は約8mである。

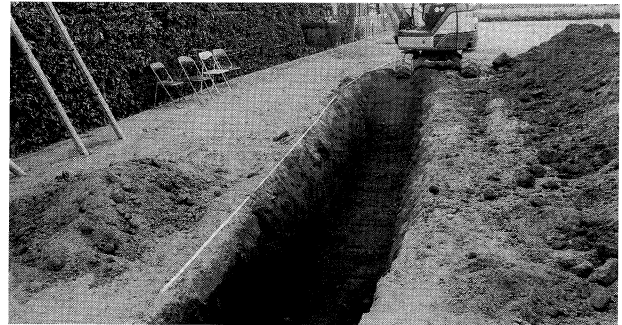
周辺の遺跡としては、本遺跡の東側に島田塚群が隣接し、坪作支谷を隔て島田込の内遺跡が展開する。また、西側には島田大久保小支谷を隔て東帰久保遺跡が展開する。島田塚群、東帰久保についての調査例は無いが、島田込の内遺跡については、県道のバイパス工事に先行して財団法人千葉県文化財センター（現千葉県教育振興財団）が調査を行い、また、市教委でも、バイパス隣接地を民間開発に関連し、2地点の調査を行っている。いずれも古墳時代～平安時代を中心にした遺構・遺物を検出している。

過去の調査例としては、昭和53年度に送電鉄塔建設に伴い、八千代市遺跡調査会が、遺跡の南西部に当たる台地先端部の調査を行った(a地点)。遺構は、平安時代の竪穴住居跡1軒、時期不明の溝1条を調査した。遺物は、奈良・平安時代の土師器が出土した。

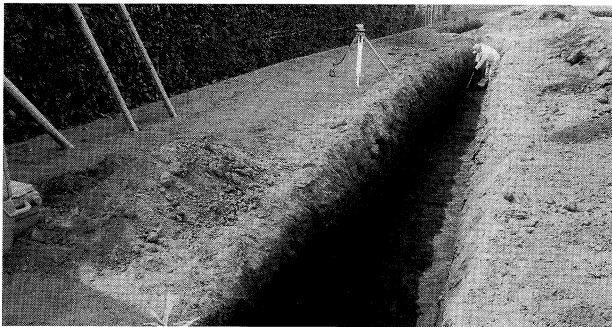
今回の調査区は、遺跡の北側縁辺に当たり、舌状台地基部の平坦面に位置する。b地点となる。



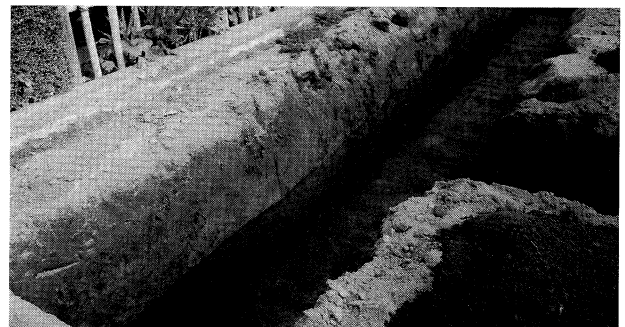
第9図 島田遺跡b地点トレンチ配置図等



調査風景



2トレンチ完掘状況



3トレンチ完掘状況

第9図 島田遺跡b地点トレンチ配置図等

### 調査の方法と経過

現況は、畑地で、調査区の形状や調査区内の状況に応じて任意のトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年8月19日～5月26日で、5月20日に機材搬入、調査区閉鎖等の環境整備及びトレンチ設定を行い、包含層確認の為に人力による手掘を開始する。21日、重機による表土除去を行い、遺構検出作業を開始する。同時に写真撮影等の記録作業も適宜行う。24日、遺構検出作業及び記録作業実施。25日から重機による埋め戻し作業を開始し、26日、埋め戻しを終了し、調査を終了した。

### 調査の概要

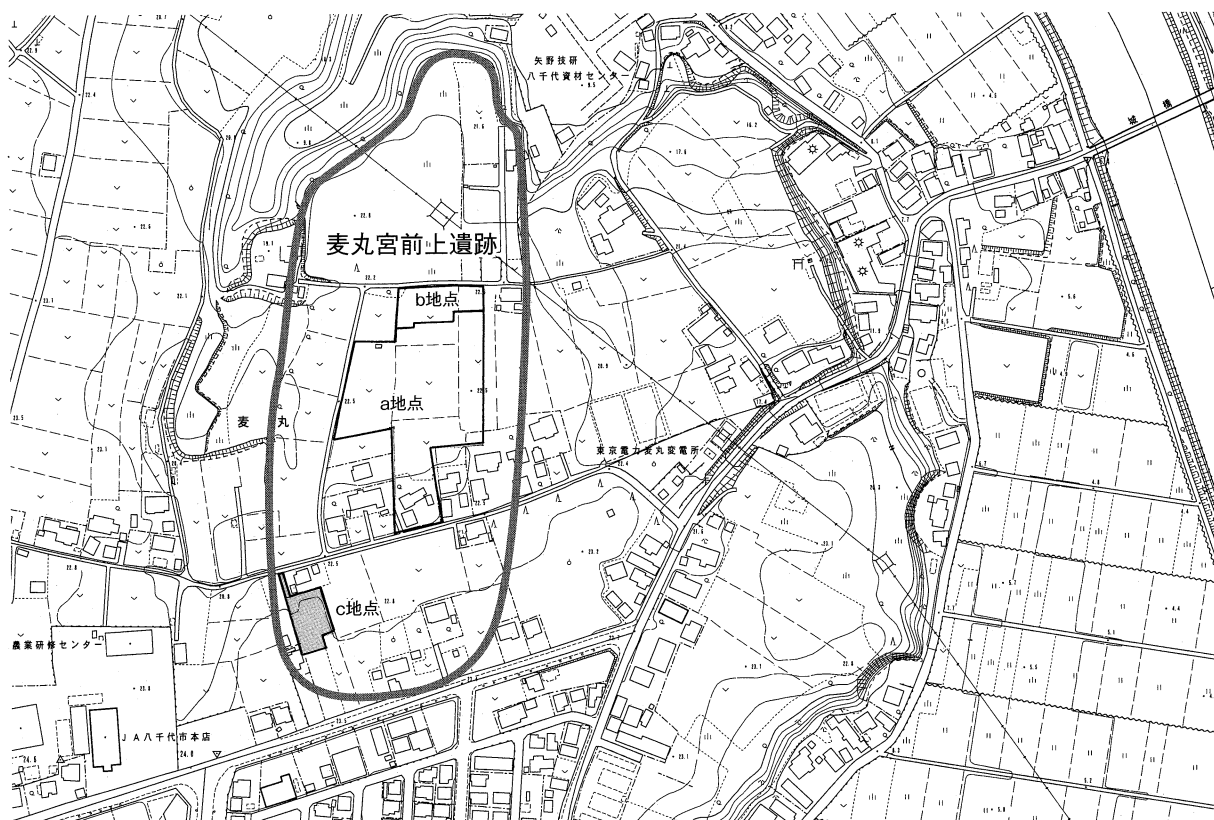
調査区の基本土層は、I層、表土（耕作土）、II層、ソフトローム層、III層、ハードローム層で、遺構確認はII層上面で行った。

遺構・遺物は、検出されなかった。

### 調査のまとめ

遺構・遺物は、検出されなかったが、遺跡の北側限界部を調査できたことは、今回の成果とも言える。今後、調査例の蓄積を待ち、更なる検討を加えていきたい。

## 5 麦丸宮前上遺跡 c 地点



第10図 麦丸宮前上遺跡位置図 (2) (1 : 5,000)

### 遺跡の立地と概要

麦丸宮前上遺跡は、市域中央の麦丸地区に所在する。遺跡立地、周辺の遺跡及び過去の調査例については、既に触れているのでⅡ章3を参照されたい。

今回の調査区は、遺跡の南西縁辺部にあたり、台地平坦面に位置する。a地点の南方にあたり、c地点となる。

### 調査の方法と経過

現況は、駐車場で、調査区の形状や調査区内の状況に応じて任意のトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年9月8日～9月10日で、9月8日に機材搬入及びトレンチ設定を行い、重機による表土除去を行う。9日、遺構検出作業を開始し、写真撮影及び土層断面図作成等の記録作業を行い、終了する。10日、重機による埋め戻し作業及び機材撤収を行い、調査を終了した。

### 調査の概要

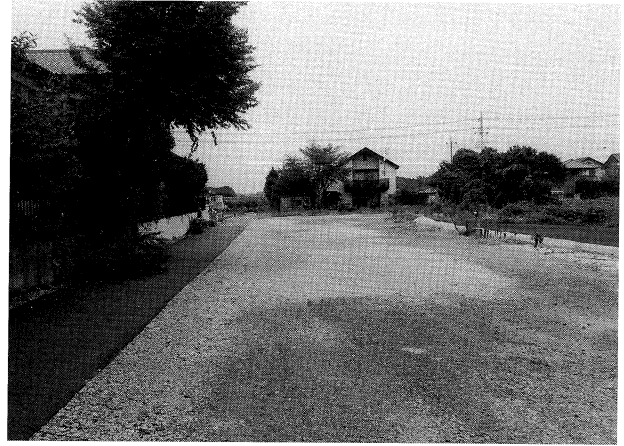
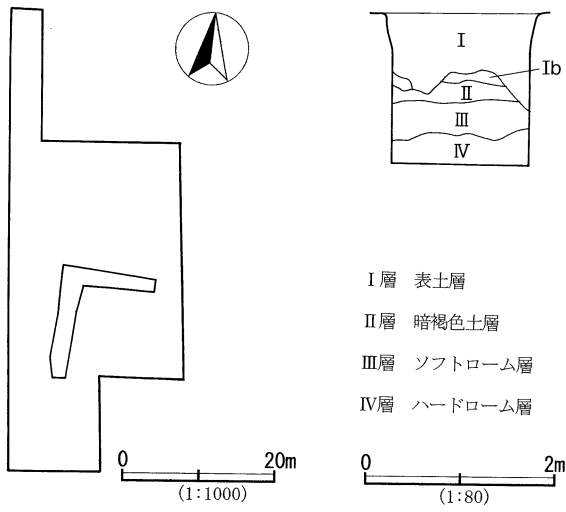
調査区の基本土層は、Ⅰ層、表土、Ⅱ層、暗褐色土層、Ⅲ層ソフトローム層、Ⅳ層ハードローム層で、遺構確認はⅢ層上面で行った。

遺構・遺物は、検出されなかった。

### 調査のまとめ

遺構・遺物は、検出されなかったが、今回の調査では、切土後の残土・建築廃材の埋め戻しが顕著な部分が多く、通常の土層堆積を残している地点はごく部分的であった。遺跡の展開としては、北側の台地先端部に大きく展開していると思われるが、なお、不明な部分もある。今後の調査例の蓄積を待ち、更なる検討を加えていきたい。



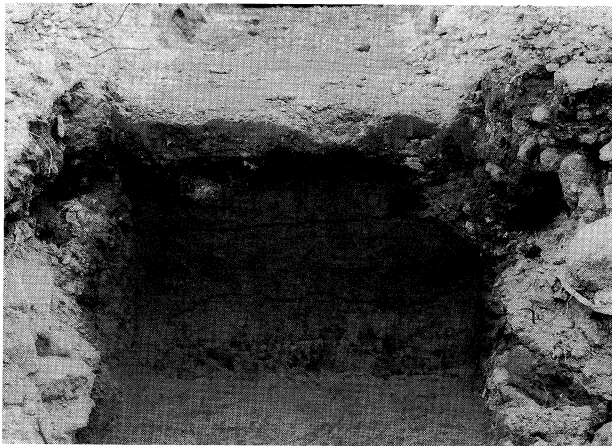


調査前現況

第11図 麦丸宮前上遺跡c地点トレンチ配置図等



トレンチ完掘状況

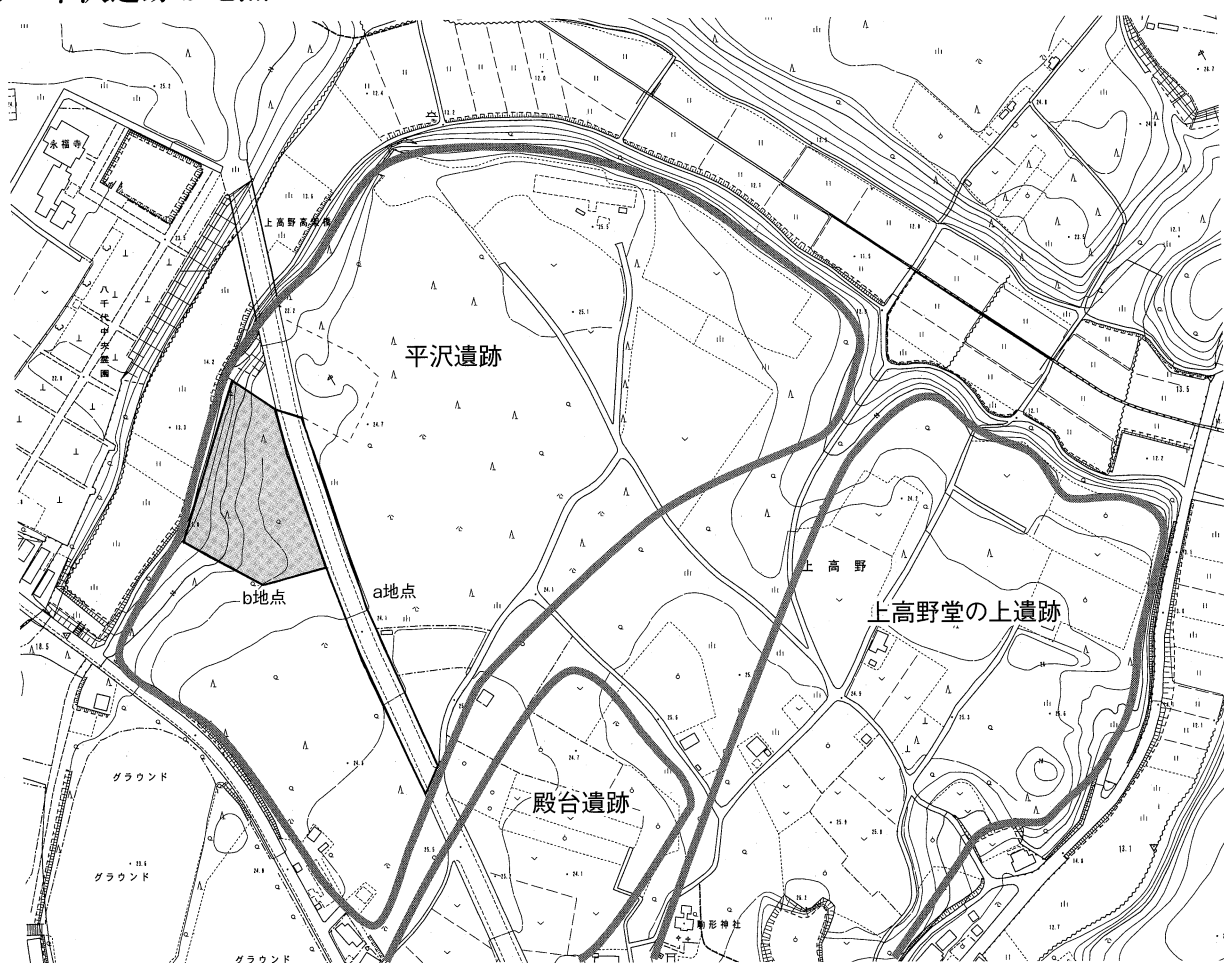


セクション



完掘全景

## 6 平沢遺跡 b 地点



第12図 平沢遺跡位置図 (1 : 5,000)

### 遺跡の立地と概要

平沢遺跡は、市域東部上高野地区に所在する。佐倉市との市境を流れる小竹川から入り込む森下谷津及び西谷津に囲まれた殿台支台北部の平沢小支台に位置する。標高は約22m～24mの台地平坦部と緩斜面に展開する。

周辺の遺跡としては、本遺跡の西側の西谷津を隔て阿蘇中学校東側遺跡が展開する。八千代市遺跡調査会によって弥生後期の竪穴住居跡・方形周溝墓等が、財団法人千葉県文化財センター(現千葉県教育振興財団)によって中近世の土坑群等がそれぞれ調査されている。本遺跡の南東隣接地には、殿台遺跡、上高野堂の上遺跡が展開している。

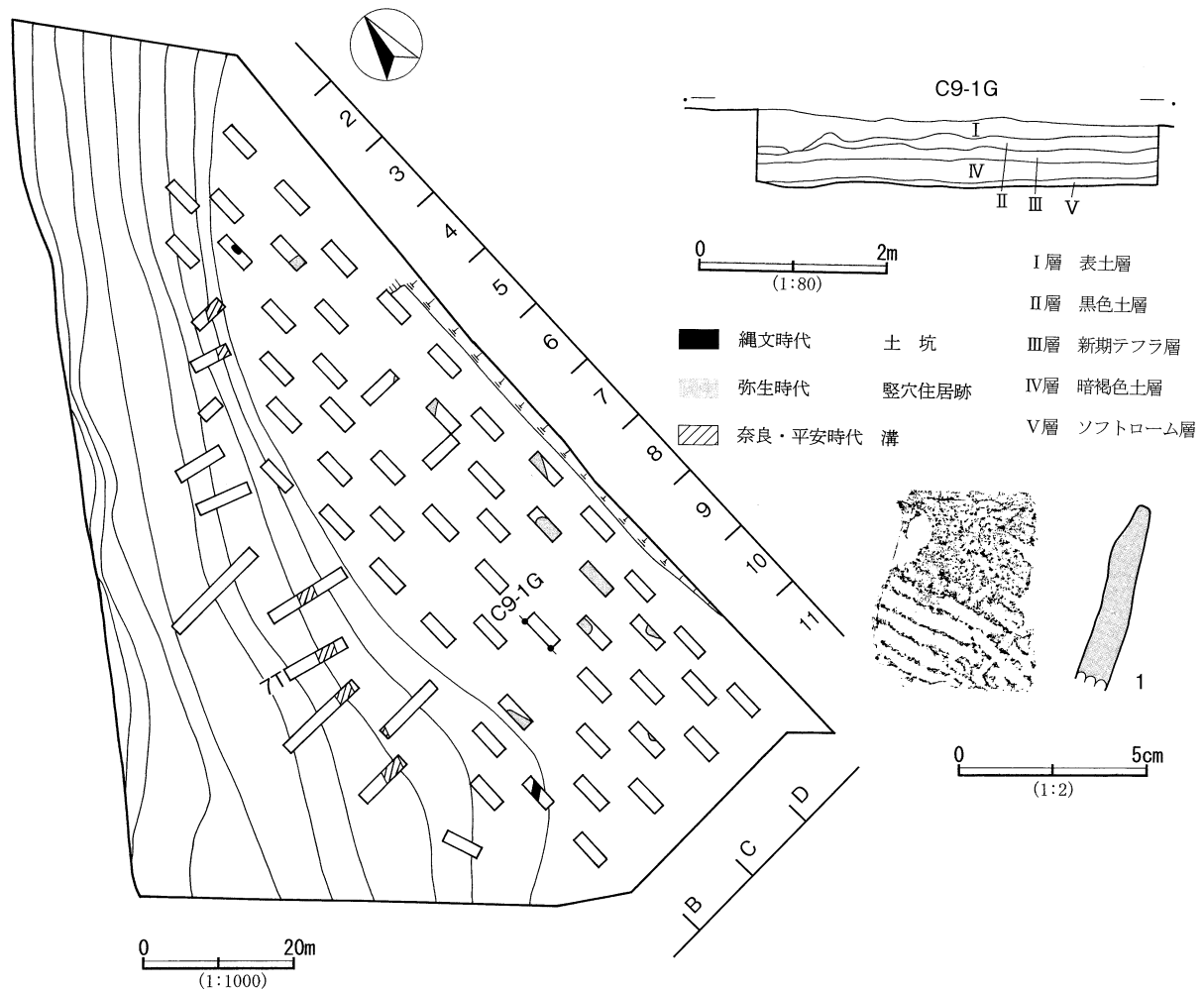
本遺跡の過去の調査例としては、平成6年度・7年度に市教委によって確認調査及び本調査が実施されている(a地点)。都市計画道路建設に先行する調査で弥生時代後期の竪穴住居跡10軒を検出している。

今回の調査区は、a地点の西側隣接地にあたりb地点となる。

### 調査の方法と経過

現況は山林であった。立ち木の状況と調査区の形状に合わせて10mグリッドを組み、原則グリッドに沿った状態で2m×5mのトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年9月24日～11月5日で、9月24日～30日、機材搬入、調査区閉鎖等の環境整備を行う。28日～10月13日、グリッド杭打ち及びトレンチ設定を行う。10月13日から人力による表土掘削を行いな



第13図 平沢遺跡b地点遺構配置図等

から遺物包含層の有無の確認を行う。10月15日から重機による表土除去及び人力による遺構検出作業を行う。以後、写真撮影、土層断面図作成等の記録作業も行う。10月22日、遺構検出作業を終了する。11月5日、埋め戻し作業を行い、調査を終了した。

#### 調査の概要

調査区の基本土層は、I層、表土層、II層、黒色土層、III層、新紀テフラ層、IV層、暗褐色土層、V層、ソフトローム層で遺構確認はV層上面で行った。

遺構は、縄文時代の土坑2基、弥生時代の竪穴住居跡9軒、奈良・平安時代の溝1条が検出された。

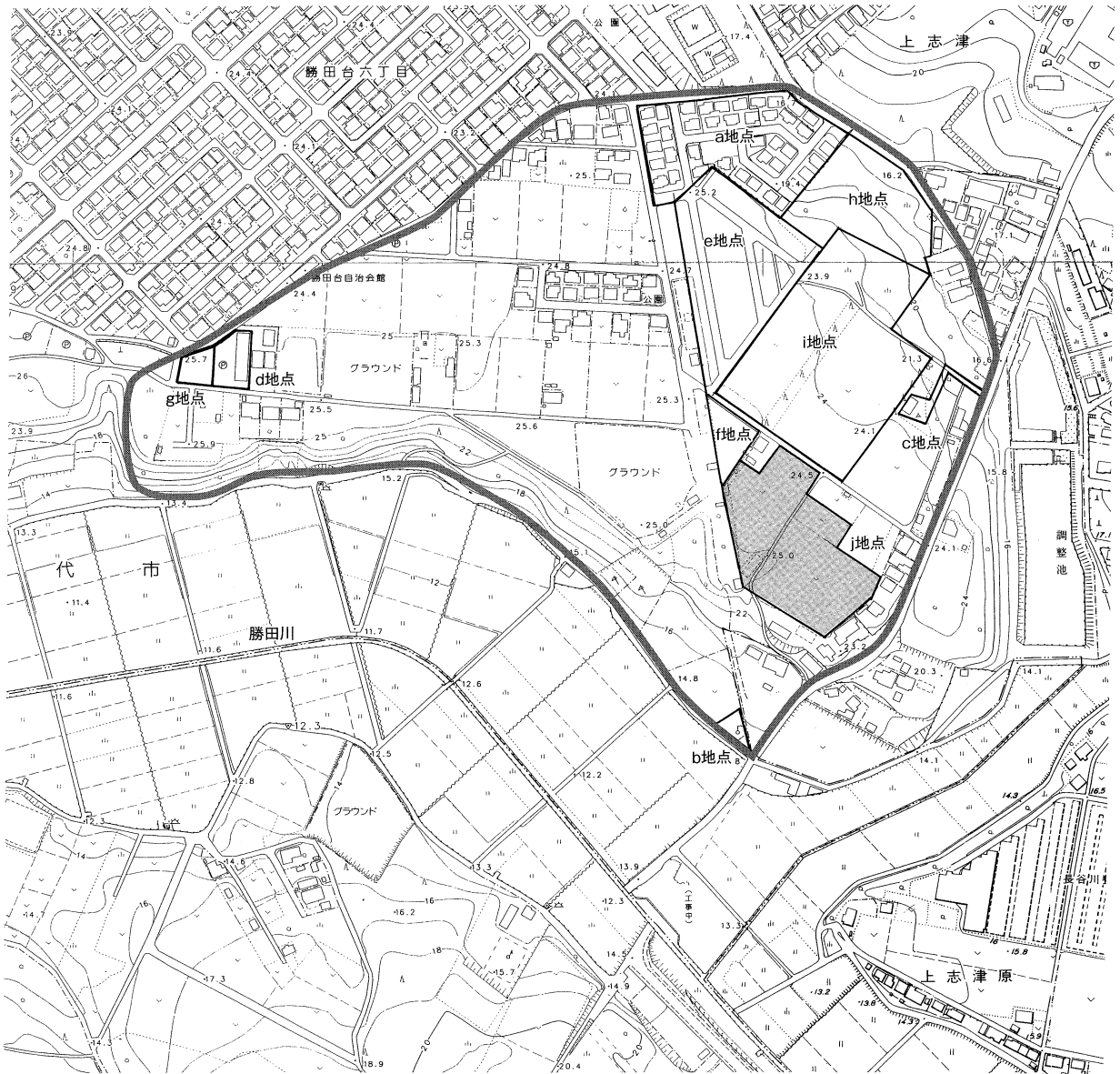
遺物の包含層は検出されず、縄文時代土器、石器、弥生土器が出土した。

1は縄文土器深鉢口縁で、7Tからの出土である。口唇部は、僅かに面取りをして角頭気味で、内削ぎぎみである。口縁部直下は無文帯で、以下、無節Rを施す。色調は暗褐色である。胎土に繊維を少量含む。前期黒浜式と考えられる。また、1同様に7Tから、熱を受け、僅かに赤化している礫が出土している（写真掲載のみ）。

#### 調査のまとめ

今回の調査は、弥生時代の竪穴住居跡が検出され、a地点で検出されていた弥生時代の集落の続きが検出されたことになり、集落の西側限界を捉えたことになる。また、a地点では検出されなかった縄文時代の土坑及び奈良・平安時代の溝が検出されたことも今回の成果の1つといえる。周辺の調査・報告例の蓄積を待ち、更に検討したい。

## 7 新東原遺跡 j 地点



第14図 新東原遺跡位置図（1：5,000）

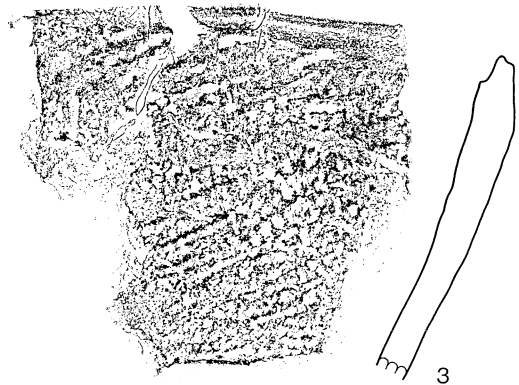
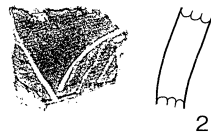
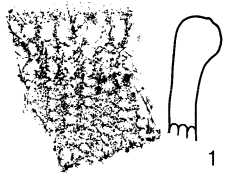
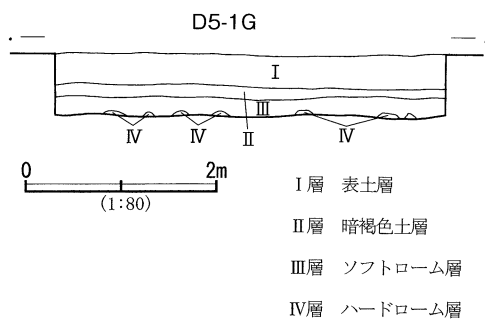
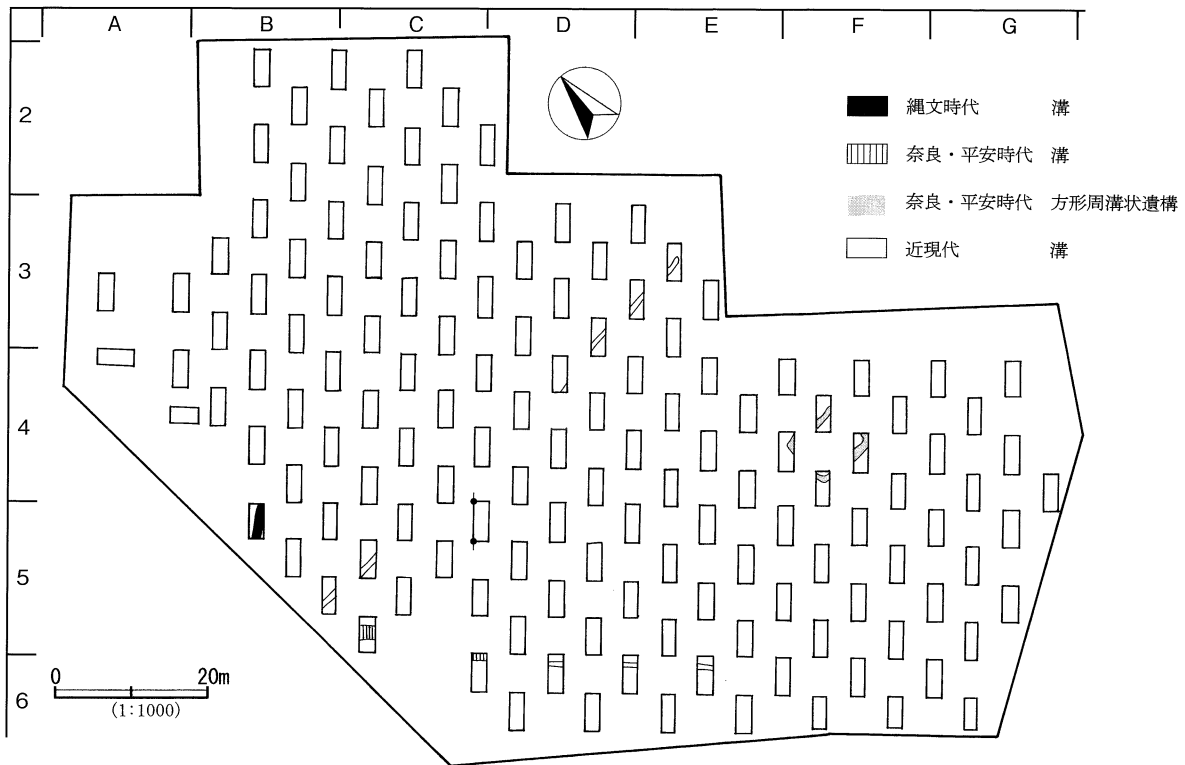
### 遺跡の立地と概要

新東原遺跡は、市域南部の勝田地区に所在する。市域南端を流れる勝田川北岸の台地で、勝田川とその支谷である新東原支谷に挟まれた台地の先端部から平坦部に展開する。標高は16m～24mで、水田面との高低差は最大12mである。

周辺の遺跡として、本遺跡の西方に勝田大作遺跡、勝田前畑遺跡などが連なり、勝田大作遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居跡等が調査されている。北方には、佐倉市域になるが、上志津大堀遺跡などが展開する。

本遺跡は、近年、八千代市内でも盛んに開発が行われている地区でもあり、これまでにa～iの9地点で発掘調査が行われている。a地点では縄文後期加曾利B式土器と土坑群などが検出されている。b地点は台地縁辺の低地に位置する地点であるが、縄文前期後半の竪穴住居跡1軒、後期加曾利B式土器などが出土している。c地点～h地点においては、縄文時代後期の土器等が少量散布する程度で遺構、遺物の密度はそれほど濃くはなかった。i地点においては縄文時代の陥穴1基と後期の縄文土器が少量出土した。

今回の調査地点は、f地点、i地点に隣接する地点でj地点となる。



0 5cm  
(1:2)



調査風景



調査風景

第15図 新東原遺跡 j 地点遺構配置図等

## 調査の方法と経過

現況は畑地であった。調査区の形状に合わせて10mグリッドを組み、グリッドに沿った状態で2m×5mのトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年9月16日～11月16日で、9月16日に下草刈り等の調査準備及び杭打ちを開始する。9月17日に杭打ち終了、9月18日に調査区を設定し、人力による表土掘削を行いながら遺物包含層の有無の確認を行う。10月23日から重機による表土除去を開始する。10月27日、重機による表土除去とともに人力による遺構検出作業を開始する。10月28日、重機による表土除去作業を終了する。以後、写真撮影、土層断面図作成等の記録作業を適宜並行しながら、人力による遺構検出作業を継続する。11月9日、遺構検出作業及びそれに伴う記録作業を終了し、機材撤収作業を行う。11月12日から重機による埋め戻し作業を開始し、11月16日、埋め戻しが終了し、調査を終了する。

## 調査の概要

調査区の基本土層は、Ⅰ層、表土層、Ⅱ層、暗褐色土層、Ⅲ層、ソフトローム層、Ⅳ層、ハードローム層で、遺構確認はⅢ層上面で行った。

遺構は、縄文時代の遺構1基、奈良・平安時代の方形周溝状遺構1基及び溝1条、近現代の溝1条を検出した。

遺物の包含層は検出されず、縄文土器、奈良・平安時代土師器が少量出土したのみであった。

1は、縄文土器深鉢口縁で、D5-3Gからの出土である。口縁部は、肥厚し、口唇部からLR縄文を縦走させる。色調は暗褐色で、胎土に砂粒を微量含む。早期撚糸文系土器で井草式と考えられる。2は、縄文土器深鉢胴部で、D5-1Gからの出土である。外面は沈線による意匠を施し、内外面とも非常によく磨きこまれている。色調は暗褐色で、焼成も良好である。3は、縄文土器深鉢口縁で、B5-9Gからの出土である。やや内湾する口縁で、口唇は面取りされ角頭状になる。外面は、口唇直下からLR縄文を全面に施す。内面は、口唇内面にナデ調整の結果、沈線を意識したような凹線がめぐる。以下、丁寧に磨きこまれている。色調は、暗褐色で焼成は良好である。縄文後期中葉の所産と考えられる。

その他の遺物としては、近現代の所産であるが、本遺跡において散見する弾子が1点出土した（写真掲載のみ）。

## 調査のまとめ

今回の調査は、縄文時代の遺構と奈良・平安時代の方形周溝状遺構と溝が検出された。遺構の分布密度及び遺物の出土量は、本遺跡の他の地点同様、低いと言える。今回、奈良・平安時代の方形周溝状遺構が検出されたのは、本遺跡では初例であり、本遺跡の性格を考える上で新たな知見が加わった。今後の調査例の蓄積を待ち、更なる検討を加えていきたい。

## 8 井戸向遺跡 b 地点



第16図 井戸向遺跡位置図（1：5,000）

### 遺跡の立地と概要

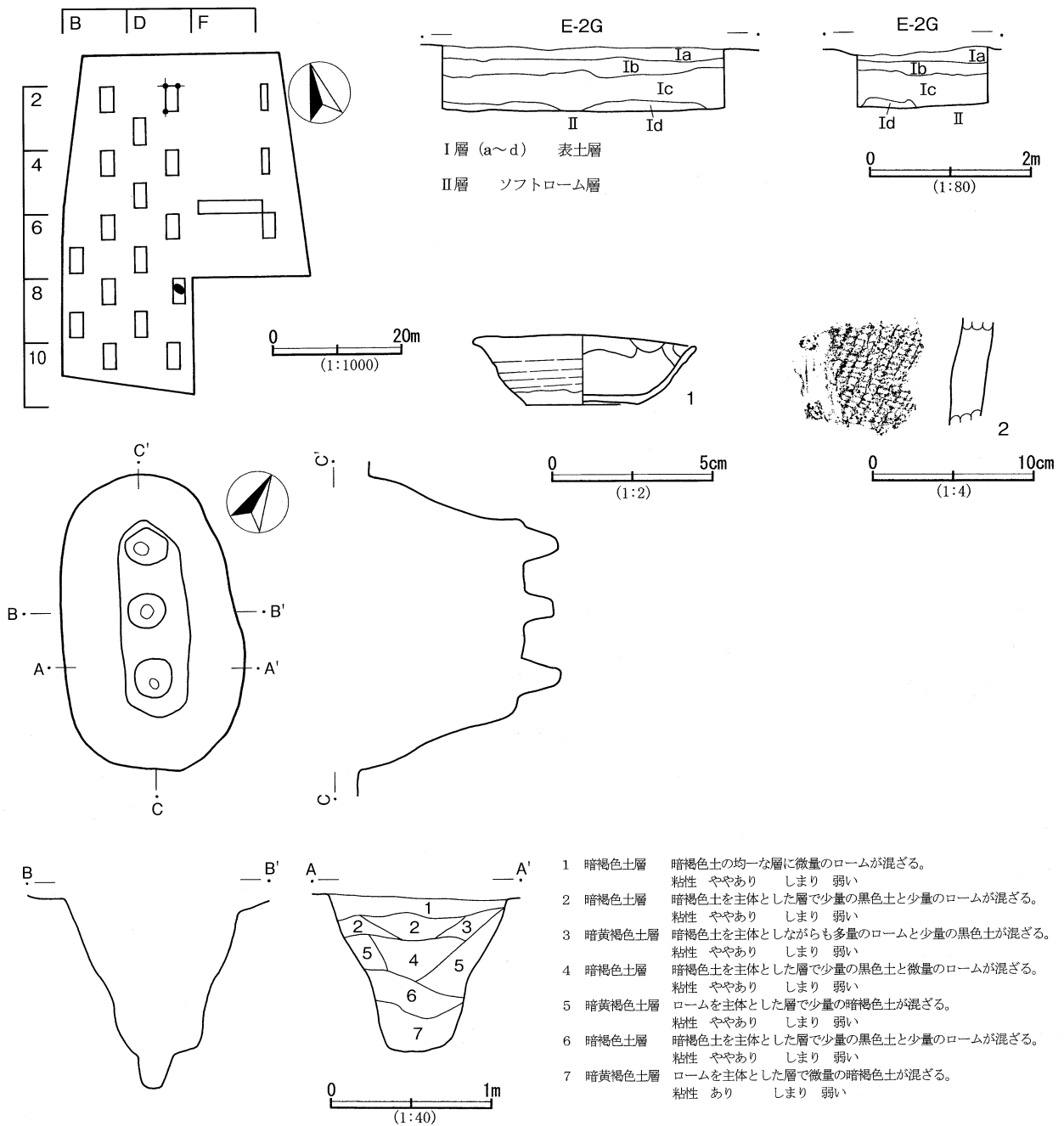
井戸向遺跡は、市域中央の萱田地区（現ゆりのき台）に所在する。市域中央を流れる新川西岸の台地で、台地北側を新川の支谷である須久茂谷津に、南側を寺谷津に区切られている。標高約14m～23mの台地上平坦部から緩斜面に展開する。水田面との高低差は最大16mである。

本遺跡は、萱田遺跡群を構成する遺跡の一つで、周辺の遺跡として、同一台地上の西方に坊山遺跡、北方に北海道遺跡が隣接して展開する。東方に南海道遺跡が、更に新川の低地に志津根遺跡が広がる。南側の寺谷津を隔てて白幡前遺跡が、北側の須久茂谷津を隔ててヲサル山遺跡、権現後遺跡等が連なる。

本遺跡の過去の調査例としては、財団法人千葉県文化財センター（現（財）千葉県教育振興財団）が、本遺跡を含む萱田遺跡群を萱田地区土地整理事業に先行して、調査を実施している。本遺跡の成果としては、旧石器時代～中世に及び、旧石器時代の遺物集中区43ヵ所、奈良・平安時代の竪穴住居跡107軒、同、掘立柱建物跡44棟、中世の地下式坑24基等が調査された。出土遺物としては、旧石器時代石器、奈良・平安時代の土師器・須恵器等が出土し、中でも多量の墨書土器や三彩の托・小壺の出土は注目される。また、中世については埋納銭660枚等が出土している。

市教委の調査としては、平成17年度に共同住宅建設に先行した調査が行われている（a地点）。縄文時代の陥穴等が調査されている。

今回の調査地点は、遺跡北方縁辺部にあたる台地平坦面で、標高は約14mの地点でb地点となる。



第17図 井戸向遺跡b地点遺構配置図



調査風景



調査風景



## 調査の方法と経過

現況は畑地であった。調査区の形状に合わせて5 mグリッドを組み、原則的にはグリッドに沿った状態で2 m×4 mのトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年11月4日～11月16日で、11月4日に機材搬入等の調査準備、調査前現況写真撮影、表面採集等を行った。11月5日に、グリッド杭打ち及びトレンチ設定を行い、人力による表土掘削を行いながら遺物包含層の有無の確認作業を開始する。11月6日、包含層の確認作業を終え、重機による表土除去を開始する。同時に人力による遺構検出作業を開始する。以後、写真撮影、土層断面図等の記録作業を適宜並行して行う。11月12日に遺構検出作業を終了し、重機による埋め戻し作業を開始する。同日、検出された土坑の遺構調査を開始する。11月16日、遺構調査を終了し、重機による埋め戻し作業も終了し、調査を終了する。

## 調査の概要

調査区の基本土層は、I層、表土層、II層、ソフトローム層で、遺構確認は、II層上面で行った。また、表土層は、50cm程度の盛土がされていて、-50cmで旧表土であることも判明した。

遺構は、縄文時代の土坑（陥穴）1基を検出した。

遺物の包含層は検出されず、縄文土器、奈良・平安時代土師器が少量出土したのみであった。

1は、奈良・平安時代土師器の坏で完形品である。C-4Gからの出土である。ロクロ成型の坏で体部下端をヘラ削りを行い、底部は回転糸切り周縁ヘラ削り調整をおこなっている。色調は暗褐色である。2は、縄文土器深鉢胴部で、G-6Gからの出土である。外面は、RL縄文を施し太い沈線で区画を行っている。内面は、磨きが施されている。色調は淡褐色で、胎土に砂粒を微量含む。中期加曾利E式と考えられる。

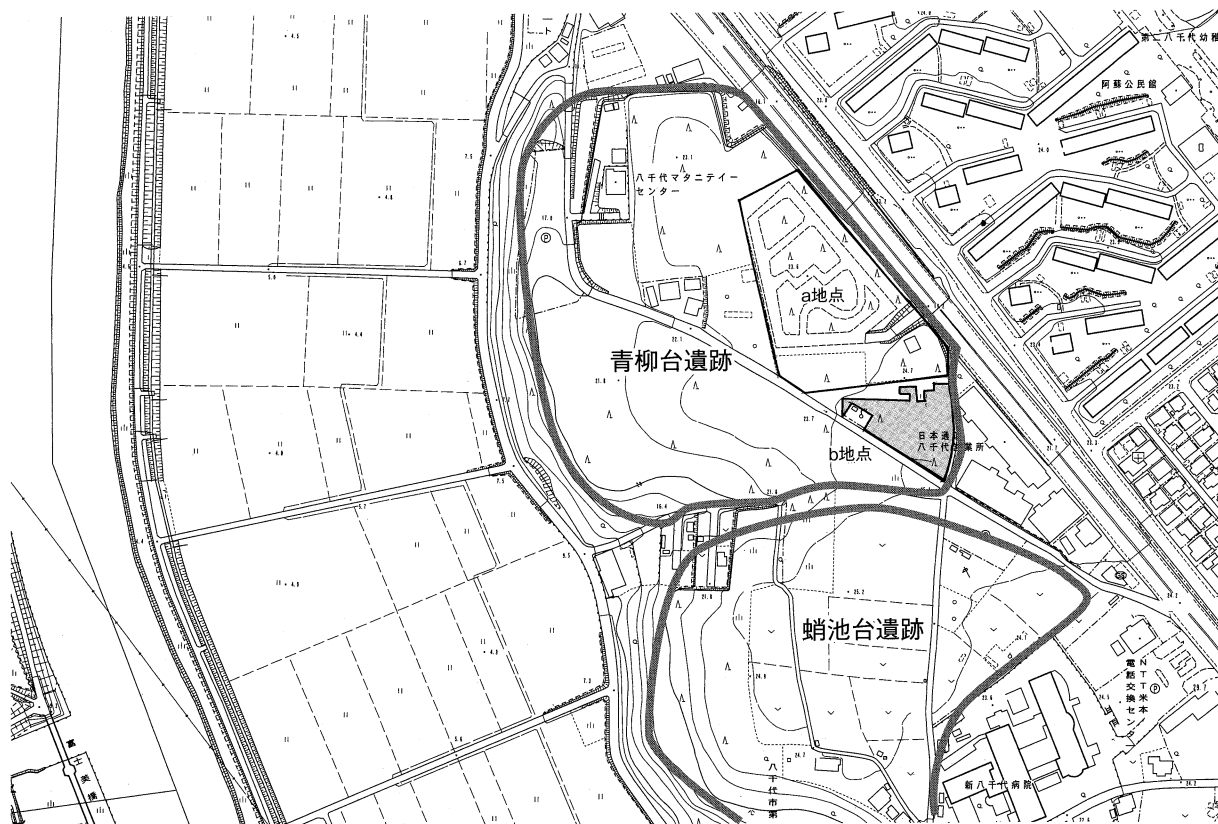
その他、奈良・平安時代の土師器小片が少量と加曾利Eを中心とする縄文土器小片が各少量出土した。図示はしなかったが、中期阿玉台式と思われる口縁部片も1点も出土した（写真掲載のみ）。

検出された土坑は、長軸1.86m×短軸1.1m×深さ1.0mの楕円形の土坑であった。坑底はロームの底面でほぼ平坦、壁もロームの壁で、急傾斜で立ち上がり若干ロート状に広がる。付属施設としては、坑底に小穴が3基検出された。いずれも径0.25m、深さ0.2m程度の規模であった。覆土は7層に分層され、ロームを主体とする層が多くあり、人為的な埋め戻しが想定される。遺物は出土しなかった。遺構の規模・形状、覆土の観察等から縄文時代の陥穴と考えられる。

## 調査のまとめ

今回のb地点の調査では、縄文時代の土坑（陥穴）1基が検出された。遺跡北側縁辺部の様相を知り得たことになった。本遺跡は、前述のとおり千葉県文化財センターによって広範囲に調査されてきたが、縄文時代の遺構・遺物は報告されていない。一方、市教委で行われたa地点の調査では、b地点同様、縄文時代の土坑（陥穴）が検出されている。こうしたことから、b地点の調査は、井戸向遺跡の縄文時代の様相を知り得る所見が一つ蓄積されたことになる。今後の類例の蓄積を待ち、検討していきたい。

## 9 青柳台遺跡 b 地点



第18図 青柳台遺跡位置図 (1 : 5,000)

### 遺跡の立地と概要

青柳台遺跡は、市域中央やや北よりの米本地区に所在する。市域中央を流れる新川東岸の台地で新川と桑納川の合流点に近く、標高約23mの台地平坦面に展開し、水田面との高低差は約19mである。

周辺の遺跡として、本遺跡の南方に蛸池台遺跡が隣接する。

過去の調査例としては、昭和60年に市教委にて確認調査を実施している (a地点)。遺構として、竪穴住居跡6軒、溝1条を検出し、弥生時代～平安時代の集落の存在を明らかにしている。遺物は、縄文土器(中期・後期)、弥生土器、古墳時代～奈良・平安時代土師器等が出土している。

今回の調査地点は、a地点の南側隣接地でb地点となる。

### 調査の方法と経過

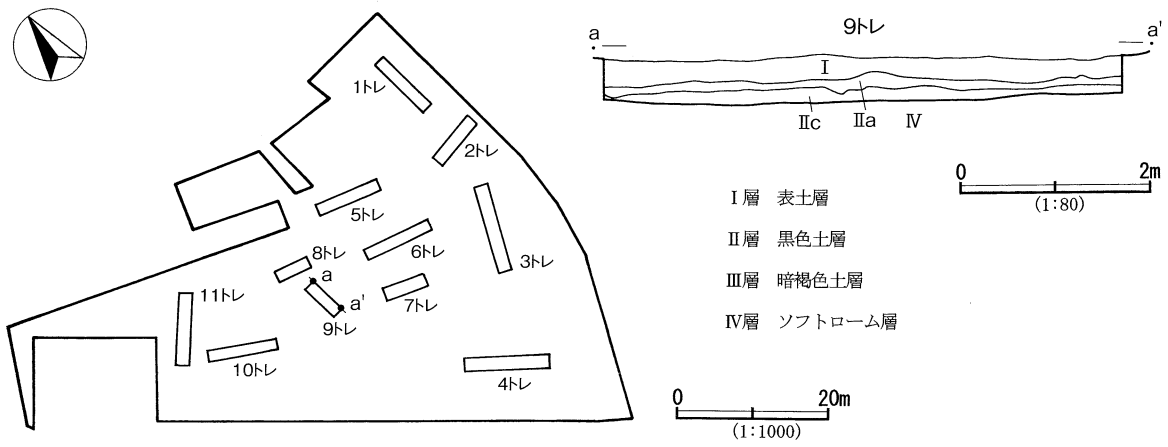
現況は山林であった。立ち木の状況と調査区の形状に合わせて、任意のトレンチを設定し、表土除去及び遺構・遺物の検出に努めた。表土除去については、重機を使用した。

調査期間は、平成21年11月17日～11月27日で、11月17日に機材搬入等の調査準備及びトレンチ設定を行った。11月18日、重機による表土除去を行い、平行して人力による表土掘削を行いながら遺物包含層の有無の確認作業を行う。11月19日、人力による遺構検出作業を開始する。以後、写真撮影、土層断面図等の記録作業を適宜並行して行う。11月26日、遺構検出作業及び記録作業を終了する。11月27日、重機による埋め戻し作業及び機材撤収を行い、調査を終了する。

### 調査の概要

調査区の基本土層は、I層、表土層、II層、黒褐色土層、III層、暗褐色土層、IV層、ソフトローム層で、遺構確認はIV層上面で行った。

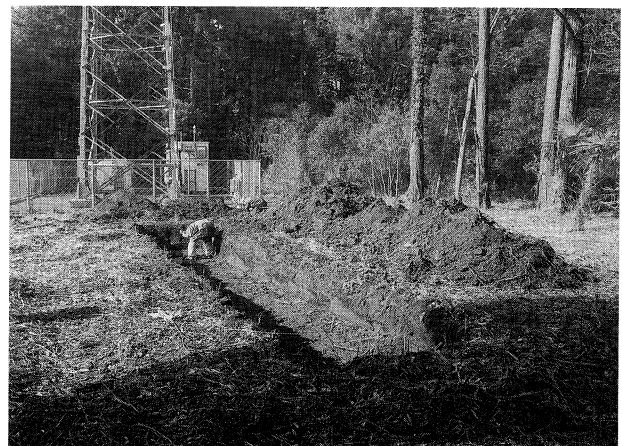
遺構・遺物は、検出されなかった。



第19図 青柳台遺跡トレンチ配置図



調査前現況



調査風景



トレンチ完掘状況

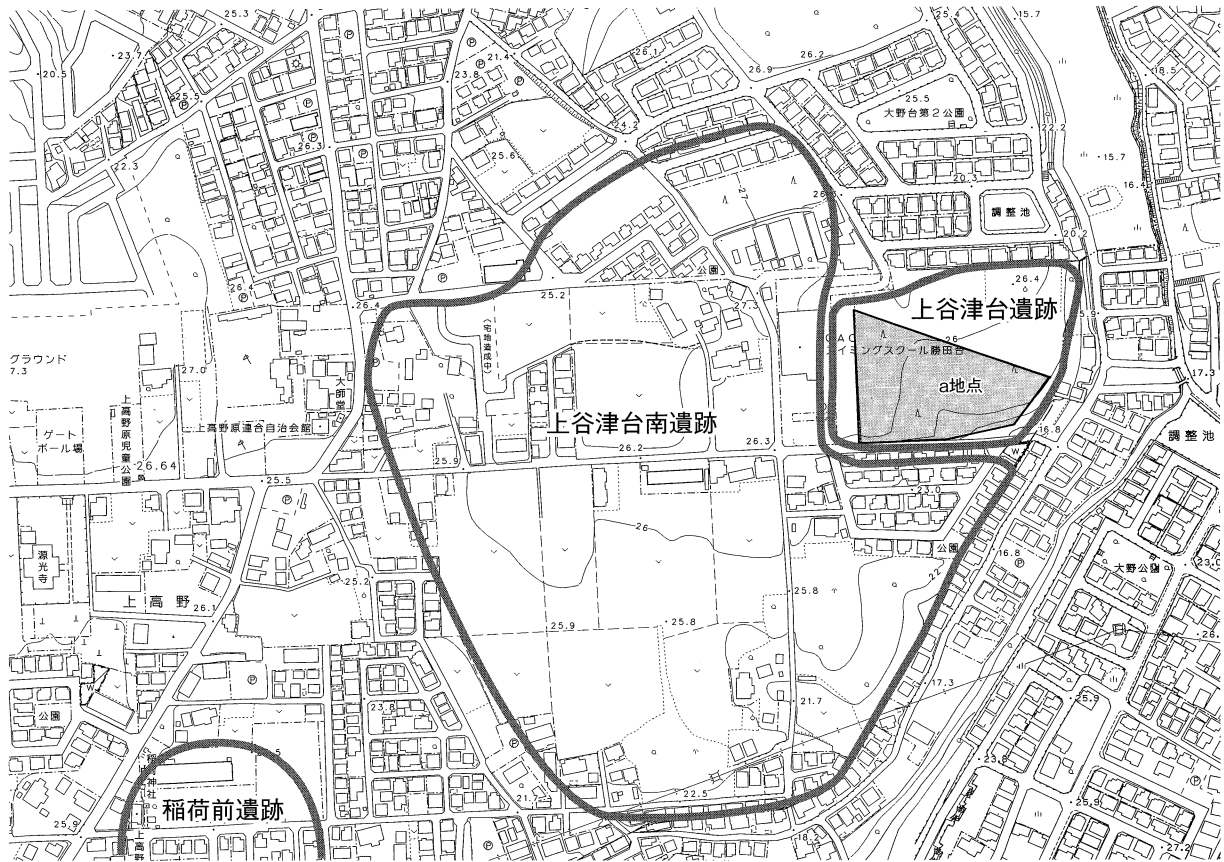


セクション

### 調査のまとめ

今回の調査で遺構・遺物は、検出されなかったが、遺跡の南東部において遺構・遺物の空白地帯を確認できたことは、今回の成果とも言える。今後、調査例の蓄積を待ち、更なる検討を加えていきたい。

## 10 上谷津台遺跡 a 地点



第20図 上谷津台遺跡位置図 (1 : 5,000)

### 遺跡の立地と概要

上谷津台遺跡は、市域の南東部、佐倉市との市境付近に所在し、井野上谷津に臨む台地上及び斜面に立地する。本遺跡についてはこれまでは未調査であるが、隣接する上谷津台南遺跡で市教委によって5地点が発掘調査され、遺構としては縄文時代の陥穴が、遺物は縄文時代後期堀之内式～加曾利B式の土器片や石斧・石鏃などが検出されている。今回の調査地点には、井野上谷津から北西に伸びる小支谷が入り込んで、標高22～28mと起伏に富んでいる。現況は山林である。上谷津台南遺跡の調査所見から、縄文時代の陥穴などの展開が予想された。

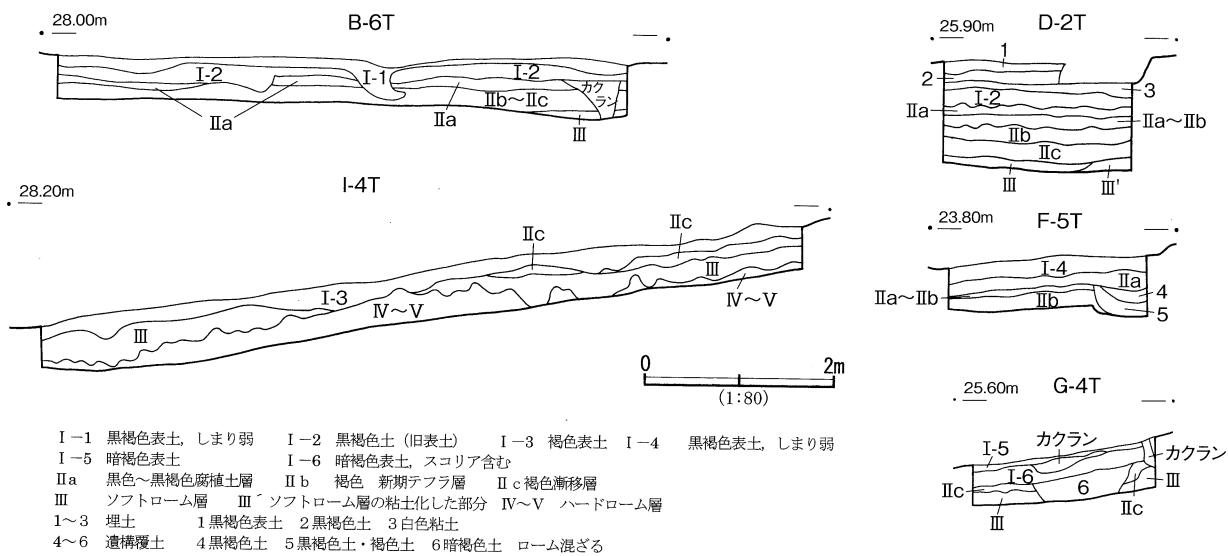
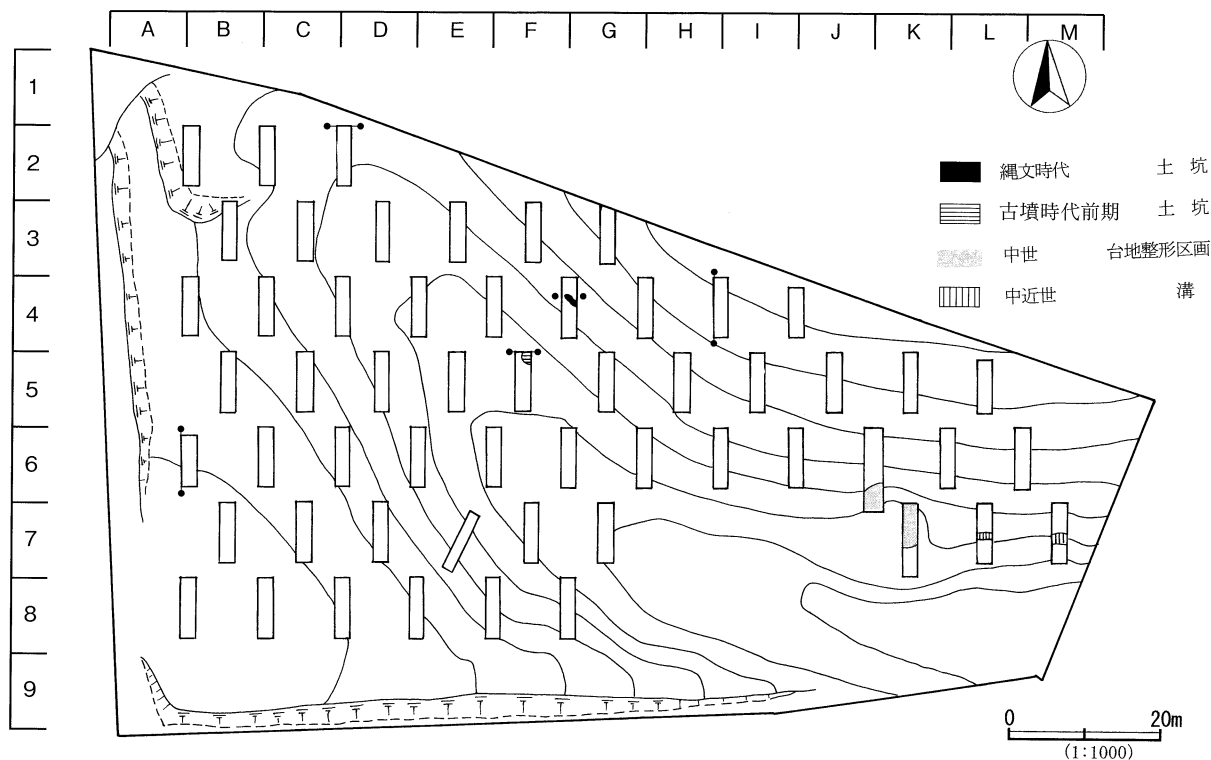
### 調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し、東西方向にアルファベット、南北方向に数字を付け、その組合せで区画を表示した。2m×7～8mのトレンチを、区画に合わせて極力規則正しく56か所840㎡分設定した。これらを重機で掘削し、遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は、平成22年3月4日から26日で、4日器材搬入、4日～5日杭打ち、4日～8日トレンチ設定、8日～15日重機による掘削、8日～16日トレンチ内精査、17日～26日土層調査、実測記録作業、24日重機による一部埋め戻し作業、26日器材を撤収し、調査を終了した。

### 調査の概要

調査区は、南東から北西への対角線状に入る谷部と、それによって隔てられた南西の台地と北東の台地という3地点に分けられる。土層の観察は、南西台地上についてはB-6トレンチ(以下Tとする)西壁、北東台地上についてはI-4T西壁を観察した。谷部については、谷奥に当たるD-2T北壁と谷底に近いG-7T西壁で観察した。他に遺構が検出されたF-5T北壁とG-4T中央部を観察した。

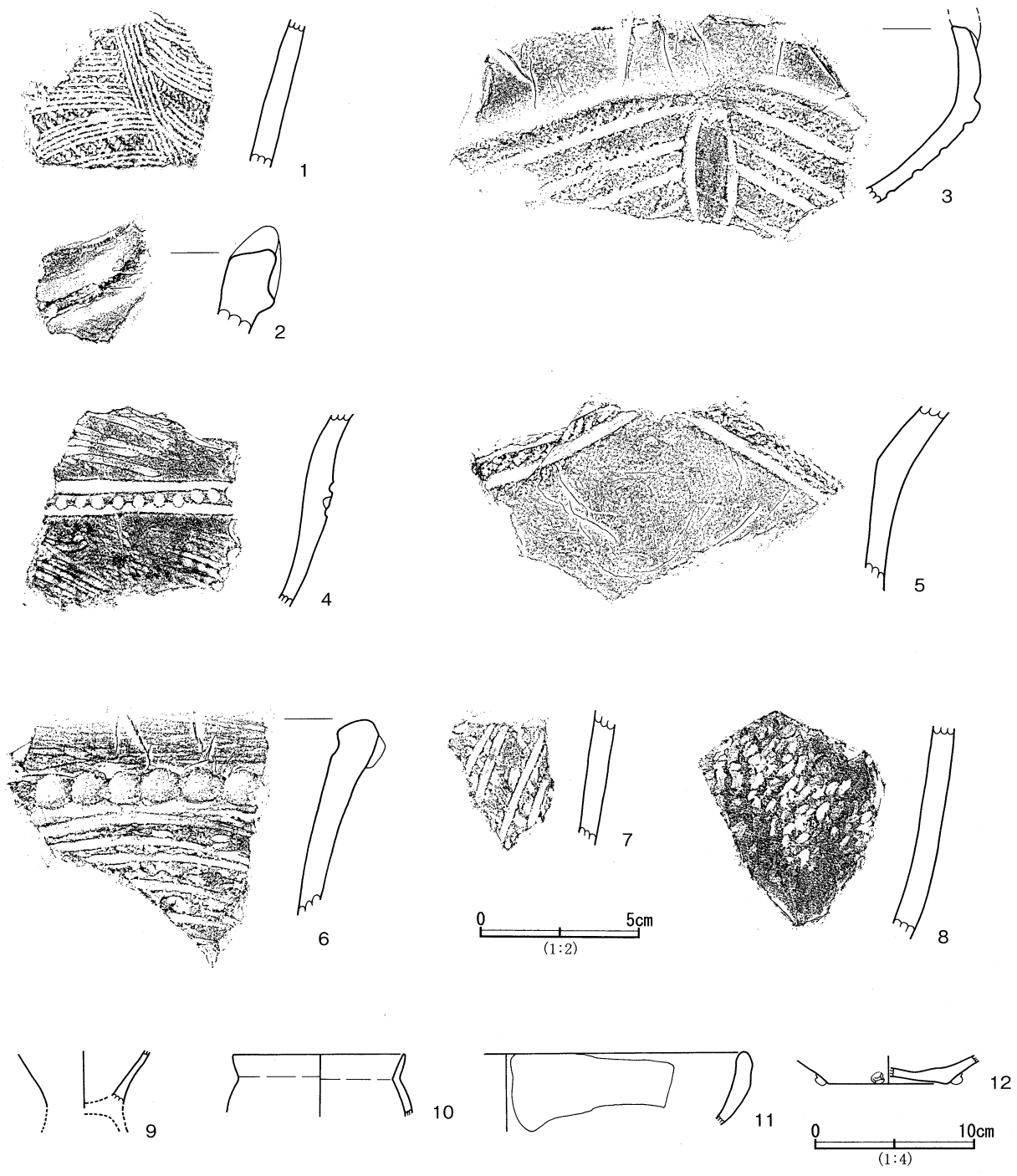


第21図 上谷津台遺跡a地点遺構配置図

B-6Tは、ほぼ平坦で、西壁の観察では、表土はしまりのない黒褐色土で、その下に旧表土と考えられる黒褐色土、腐植堆積土層と考えられる褐色土のにじむ黒褐色土と続き、その下は、新期富士テフラ層とローム漸移層とが混然とした褐色土である。概ね地表下50~55cm、標高27.3m前後でソフトローム層に至る。周囲のトレンチでは、地表下33~60cmでソフトローム層に達していた。

北東台地上の土層の様相は、南西台地上とは大きく異なっていた。I-4Tは南が低くなる緩斜面上で、西壁の観察では、表土は褐色土で、その下はローム漸移層・ソフトローム層となり、場所によっては、地表下20cmでハードローム層に達している。ソフトローム層の標高は概ね26.7~27.8mであった。

谷部のD-2T北壁では、上層30cmは黒褐色土主体の人為的埋土で、その最下層は層厚5~16cmの白色粘土層であった。自然堆積層は、旧表土、腐植堆積土層、新期富士テフラ層、ローム漸移層に相当する層が観



第22図 上谷津台遺跡a地点出土遺物

察され、良好な堆積であった。地表下1m、標高24.6～24.7mでソフトローム層に達した。その下にもぐりこむように、粘土化した褐色土が観察された。谷底のG-7Tは、ほぼ平坦で、西壁の観察では、土層は黒褐色土が主体で、地表下80cmでも黒褐色土のままであった。谷部では、全体的に新期テフラ層の下に暗褐色土・黒褐色土が厚く堆積していることが確認された。

F-5Tは、谷底に近い緩斜面である。北壁で遺構断面を観察した。腐植堆積土層～新期富士テフラ層を切って遺構は掘られている。遺構覆土は黒褐色土で、土師器片を包含していた。

G-4Tは、北東台地側の斜面で、中央部の土層観察では、暗褐色土～褐色土が主体であった。ローム漸移層・ソフトローム層を切って遺構は掘られている。遺構覆土はローム混じりの暗褐色土である。

G-4Tの遺構は、覆土の状態と平面形態から、縄文時代の陥穴と推測した。F-5Tの遺構は、甕と推定される土師器片が28点出土した。刷毛目が認められる破片があり、古墳時代前期の土坑と判断した。南向き斜面部のK-7グリッド付近には、10m×5mほどの雛壇状の平坦面が存在していた。K-7T等で、掘削・清掃したところ、粘土面を床面としており、その床面に土坑が確認された。粘土面から陶器片8点や焙烙片1点、焼成粘土塊3点などが出土した。その在り方から、中世の台地整形区画と判断した。またこの区画から東へ向かって溝跡を1条検出した。覆土は黒褐色～暗褐色土であった。遺物は検出されなかった。区画と関連するものと考えられ、同時期の溝跡と判断した。

遺物は、合計70点で、うち縄文土器が22点、土師器28点、陶器8点、素焼土器2点、焼成粘土塊3点、高師小僧1点などであった。このうち12点を抽出し第22図に示した。1は、G-5T I層出土。地文RL縄文の上に5本単位の櫛描文が縦横に引かれる。縄文前期後半。2は、E-4T II b層出土。微隆起が口唇部の突起に連なるもので、縄文中期加曾利E4式。3は、D-2T出土。口唇部に取っ手が付く鉢。胴部下半に沈線による文様と縄文が付けられる。縄文後期加曾利B式後半の精製土器。4は、B-3T出土。沈線と刺突文、横方向の条線、右端に蛇行沈線が見える。また捺糸文のようなものも見える。縄文後期加曾利B3式か。5は、D-2T出土。沈線で画されたLR縄文帯が見える。縄文後期加曾利B式の精製土器か。6～8は、縄文後期加曾利B式の粗製深鉢。6・7はB-8T出土。地文は短沈線による擬似縄文と思われる。8は、D-8T出土。粗い縄文かあるいはこれも短沈線による擬似縄文かもしれない。9・10は、F-5Tの遺構覆土出土の土師器。9は台付甕であろう。外面に刷毛目がわずかに見える。10は、復元口径10.8cmの小型甕。ともに古墳時代前期。11・12は、台地整形区画に関わる遺物。11はK-7T出土。素焼土器の焙烙か。復元口径約30cm。12は、K-6～7Tの粘土面出土。内面に釉葉が塗られ、外面に瘤状貼付文のある陶器の皿である。

#### 調査のまとめ

縄文時代の遺構の展開を予想し、実際に加曾利B式を中心に縄文土器片の出土や陥穴と推定される遺構を確認したが、これに加えて、今まで上谷津台周辺ではほとんど見られなかった古墳時代前期の土師器を伴う遺構が検出されたこと、また中世と考えられる台地整形区画が検出されたことは、新知見である。それらが台地の上ではなく、谷に面した斜面部～斜面下方にあったことは、今後の発掘調査においても注意する必要がある。

参 考 文 献

- 八千代市 『八千代市の歴史 通史編』 2008
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成8年度』 1997
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成9年度』 1998
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成11年度』 1999
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成12年度』 2000
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成13年度』 2002
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』 2003
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書 沼上遺跡・妙見前遺跡・川崎山遺跡 j 地点・新久遺跡・麦丸遺跡 c 地点 外』 2003
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成15年度』 2004
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成16年度』 2005
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成17年度』 2006
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』 2007
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成19年度』 2008
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成20年度』 2009
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市殿内遺跡 b 地点』 2009
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成21年度』 2010
- 〈池の台遺跡関連〉
- 八千代市遺跡調査会 『池ノ台遺跡発掘調査報告書』 1979
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市池の台遺跡』 1986
- 八千代市遺跡調査会 『萱田町川崎山遺跡発掘調査報告書』 1979
- 八千代市川崎山遺跡調査会 『千葉県八千代市川崎山遺跡発掘調査報告書』 1999
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市不特定遺跡 1 金塚所在塚・萱田町川崎山遺跡 b 地点 外』 2002
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市川崎山遺跡 d 地点』 2003
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市川崎山遺跡 h 地点』 2004
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市川崎山遺跡 k 地点』 2006
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市川崎山遺跡 - f 地点埋蔵文化財調査報告書 -』 2008
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市川崎山遺跡 m 地点』 2008
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市川崎山遺跡 n 地点』 2008
- 八千代市遺跡調査会・八千代市上ノ山遺跡調査会 『千葉県八千代市上ノ山遺跡 b・c 地点発掘調査報告書』 2000
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市上ノ山遺跡 - 埋蔵文化財調査報告書』 2008
- 〈妙見前遺跡関連〉
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市北部緊急調査発掘調査報告』 1983
- 八千代市教育委員会 『千葉県八千代市妙見前遺跡 b 地点発掘調査報告書』 2008
- 〈麦丸宮前上遺跡関連〉
- 八千代市遺跡調査会 『千葉県八千代市麦丸遺跡』 1982
- 〈島田遺跡関連〉
- 八千代市遺跡調査会・船橋市遺跡調査会 『東京電力送電鉄塔建設事業に伴う発掘調査報告書』 1980